大正十年八月五日第三種郵便物認可
大正十年八月五日印刷納本
（毎月一回五日發行）
大正十年八月五日發行

光

(3)

大正十年八月號

◆「光」三號を出すことになつた日…………西田天香
◆下坐してお詫のふみを書く…………西田天香
◆知ること、知らしむること…………西田天香
◆思ひ出のまゝ…………李命錫
◆「これ人を見るなり」…………和辻哲郎
◆詩三篇…………宮崎安右衞門

同人　懺悔報恩の奉仕者
祈願　不二の光明によれる生活
費用　供養されたる淨財

◆蹌踉記…………藤井悌
◆物思歎…………井箆節三
◆對話…………松下吉衞
◆閑古鳥と蜩…………池田龍一
◆一燈園だより、其の他…………京都一燈園
◆返照錄…………遠近兄姉

一燈園・宣光社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

光明祈願（暫定）

不二の光明は宇宙に遍滿する陽光の如し。物あり、之に觸れて色々の光を發す。光明祈願は卽ち起稿者識界の現象に過ぎず。添すべく、削すべく、正さゞる可らず、改作また不可なし。暫定と名づくる所以なり。

一　不二の光明によりて新生し、許されて活きむ。

我等は先づ不二の光明によりて復活新生し、神に委れ佛に養はれ、他に障りなき生涯を送らざる可からず。

二　諸宗の眞髓を禮拜して歸一の大願に參ぜん。

内外古今諸宗の眞髓を禮拜すれば、歸一の大願は正に左の如くなる可し。

通願　皆倶成就大圓覺

別願　將來世界眞平和

別に一宗を立てず、單に一宗に偏らず、古今聖者の光を仰ぎ德を頌し、その遺されたる事業を成就せんことを期す。

三　懺悔の爲に奉仕し、報恩の爲に行乞せん。

世間一切の罪惡苦患、何人かその責を脱るゝことを得べき。願くば常に懺悔の心を持して十字街頭に奉仕し、菩提心によりて行乞し、以て法界成就の本願に副はんことを。

四　法爾の淸規に隨ひ、世諦を成ぜん。

天眞法爾の戒相に則り、六度の行願に隨ひ、治生產業に卽して眞道を行じ、永久眞平和を將來すべき生活法を實證し、以て在家俗諦を成就せんことを期す。

五　卽ち天華香洞に歸り無相の樂園に逍遙せん。

達觀すれば實にも此世は寂光の淨土、妙樂の天國、文明の隆興も進化の事象も乃至淸規戒行も、此の見地よりすれば則ち一の遊戲三昧に過ぎず。憾むらくは箇中の消息、もとより言辭の髣髴し得る限りにあらざるを。暫らく此の實相に名けて天華香洞といふ。

天華香洞の門、假りに名けて一燈園となす。道に志して尙自ら立つ能はざるもの、乃至老、病、幼者等の爲めに設けられたる一の化城とも見る可し。その存立は喜捨の淨財に成り、在園はその淸規によりて許さる。

天華香洞に立ち、信託を受けたる財物事業の整理經營等に從ふを假りに名けて宣光社といふ。宣光社の目的は世間の執迷、紛爭、葛藤を根絕し、以て齊家、治國、平天下を期するにあり。

天華香洞と一燈園と宣光社と、三位にして一體、通じては卽ち無相不二。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

「光」三號を出すことになつた日

—天香日誌抄—

七月十一日。中桐氏の宅に目覺む。ふと、思ひを決して跣足にて庭に下りる。苔の上冷かにして心地よし。我には殊になつかしみあり。歸家宴坐！　歸家宴坐！　よし、今日より我は天華香洞に歸るべし。

庭の落葉を掃く、腰巻に薄シャツ壹枚、繁れる下枝のその下にくゞりて、殘るくまなく掃きよせる。あゝありがたし、自由？　解放？　將た遊戲三昧？。靑き空、厚き大地、殊に跣足のゆつたりさよ。

久し振りにバケツと雜布をもつ、なつかしき我友よ。我御身等の姿を毎朝此家に見しに、手を觸るゝゆとりのなき我胸のいたましさの爲めに、粗縁となりたる事や久し。我御身等と離るゝとき、心と身と生活は神通を缺きやすし。我神通を失ふにあらず、人の光を得難きを如何にせむ。

我天華香洞にあるとき、人は敬して遠ざくるあり。淸らかなれども實際問題にかけはなれたりといふ。若し座に上りて親しく語れば、人反りて光を見る能はず。下坐の時は遠ざけられても光はあざやかなり。上坐するとき近づけども光は消ゆ。我過ぐる二三年の間、如何に此爲めに心を勞したるとよ。

今朝ふと天華香洞に歸る。何の爲めか獨り有難さの涙にむせぶ。なつかしき十字街頭よ。こゝには、あらゆるものはそなはれり。

宣光社にありて、天華香洞又は一燈園のことを語る。宛も電燈を消して光りを說くに似たり。光輝けば說明は要なし。よし。ゆきつまれる問題も今は玆から步めば足る。宣光社として爲すべきだけは既に爲し盡したるに似たり。

宣光社をこゝまでに手を盡し、あとをあらためて光に托しまゐらせむ。引受けてがあれば天華香洞に歸らんとは事の前後をあやまるものなり。天華香洞に歸るとき宣光社の人は出づべし

我若し、人の問題を扱ふときは、宣光社を引受くべければ天華香洞にすゝみたまへと云はむ。され共我問題のときは我先づ天華香洞に歸りて、あとは光に任せたてまつらむ。

眞の宣光社は我光のみもとにありて、そこに來つて立つ人によらざれば不可なり。若し人に賴みて光に歸らば天華香洞の自在を失ふべし。

聖書の言葉も佛敎の言葉も、人格を通じてはじめて活きる。たゞこの上坐と下坐の間三尺に過ぎず、され共上にありて語る、難澁にして透徹を缺く、下坐して語る、語少うして而も力あり。彼にありては說くに從ひて破れ、之れにありては、未だ說かざるに既に勝てり。諸天善神護助し、三世の諸佛ほめたまふ。我かくて始めて一切の友人に申譯あり、又かくて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

一切の問題に對して解決の鍵をもつ。

いたづらに友より許されん事を望むは愚なり。我先づ許されなば、友は許しやすからむ。如何にしてわれ許されんか。曰く、下坐して天華香洞に宴坐する事こそよけれ。

願くば、われこのまゝにてありたし。跣足のまゝにてありたし。徒らに座に上る。たとへ純な心持にて招かるとも我は願くば下坐をつゞけたし。下坐をつゞけるには時々跣足で土を踏むに限る。

我上坐するとき底しれぬ苦痛あり。反つて下坐を行ずるとき限りなき喜びあり。人之れを苦行といふ。我は如何にしてもその事を解する能はざるまでになれり。是何の爲め？　我はいつのまにか法界を已れとなすを喜びとなすやう導かれたるもの？

下坐してあらん間、我は一切の人に對して飽かしむる事を得べし、暖かならしむるを得べし。また雨を凌ぐことを得しむべし。

あゝ此光景、我一人したしく知る。他に說くあたはず、書く能はず、しかして是現實なり、實際問題を離れず、手は動き足は步み、自然の動作、妙律にかなふ。

朝餐をすゝめらる。今日はあたりまへにはいただかざるべし。され共久敷なじみの家、ことにけば／＼しくなるもいやなり。靜かに座につき一椀半をいたゞく。今日は行くべき約ある日なり。よし、このまゝにて往かむ。座敷より又跣足にて飛び降りしが、友人へ還すべき足駄ありて暫く之れを履く。道になをしやにあふ、歯をいれ換へてくれとたのむ。なをし賃の貳拾五錢は安からねども、此日心に何のさはりもなし。禮を述べ押いたゞいてさげてゆく。今日は跣足と心にきめたり、たとへ幾日とはつゞかずとも、今日ばかりは跣足のまゝなるこそ心地よけれ。戸山學校にむいて往く。砂利道殊に少しは日に焼けたり。いたし、あつし。され共今日ばかりはせめて跣足たるべしと嬉しく心にきめてゆく。右の端に溝石の長きに連りてあるに便宜を得て、そこをひた走りにゆく。心地よし。是にて行きちがふ勞働者の方にも申譯あり。程なく少しは足のうらも固くなりぬ。もういたくなし。西大久保の吉田勳兄の宅にゆく。今日はゆき心地よし。同じ人に同じ家、何が爲めに先きには往くにつらく、今はやすきや。他なし、已が心に決する處あると、思ふことを今日は爲しつゝあればなり。勳兄はあらず、去つて山中峯太郎兄を訪ふ。まづ塀の外面の草を除く。こゝも同じ家に同じ草、何が故に先きの日は奉仕に不便に、今日は奉仕に便なりや。たゞ下坐の徳のみ。ありがたし。主人は在か不在か知らず、されども我は人知れずにぬく草のうちに主人の生命に遭へり。門を入る、「山中さん」、聲に應じてあらはれ、二階へ上れといはる。「今日は下坐のまゝで」といひつゝ、庭の小草をほつ／＼と拔く。山中さん下りて緣側に來られる。やがて門外に出て先きの殘りの草をぬく。同夫人もくる、三人草ぬきながら奉仕の話しをする。前庭に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

歸る。我著書のことについて話さる。頓と漸とについても眞劍な研究を交はす。山中兄云はる、『家內は私に申します、さきに十字街頭に立つて下さい、わたしは小供をかゝへて留守しますと。され共家庭ぐるみにあらずばといひたるなり。』と。けなげなる令夫人の言葉かな。私は山中さんに云ふ『一燈園をおつかひ下さい、家庭ぐるみできて下さい。そうして新生涯を試みて下さい。』と。

　いゝしるこの御馳走になる。此日殊にうまし。恐らくは兄と令夫人もよい氣持なるべし。足を冷き土につけながら、よい氣持で又語りあふ。つた子父の歸りを告げにくる。勳兄にあふ電話をかけにゆく。米屋にて米壹斗を貰ひ勳兄の光前に供へる。又山中兄を訪ふ。轉々辦事して何の澁滯もなし。あゝ、不可思議の此光景、この境は如何なる問題をも整理の出來る處也。

　山中兄の原稿用紙をいただく。卽此ありのまゝを書いて日記にはさむ。

　光を輝かすとき光の說明を要せず。光を消して說明をせんとするとき、苦や甚し。我宣光社を預る。人二つの人格を認めず、而かも宣光社は一燈園と不二なり。一燈園の光なくして宣光社は意義乏し。されども一燈園を說くには宣光社身の我では不便也。しかも適當の人なきに苦しめり。今日漸く思ひ切つて天華香洞に歸る。今日以前に適當の日なく、今日以後又なかるべし。尊むべし。光のはからひ。

　願くば此下坐をして不退ならしめよ。是久しき久しき我願ひなり。今や一燈園の清規も略定まりぬ。宣光社も亦然り。退いて天華香洞に歸り、光の泉をさらえんなり。すべて光に感謝す。ありがたし尊し。

我を嘲る歌

藤井悌

罪なれば行きかふ人のことごとも我にまさりて威ありと思ほゆ。

昨(きそ)の夜の夢か千年(ちとせ)のいにしへか斷崖(きりぎし)に立つわが姿見ゆ。

みづからを大たわけめと叱るとき心いさゝか慰むあはれさ。

ひたすらに憎みはてなば、ひたすらに憎まれはてなば心安けむを。

われに似る何びともなし、かく思ひひとり都を離れゆくなり。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

下坐してお詫のふみを書く

—七月十一日—

西田天香

『少しも自から欺かざれ』とおもふとき、中々筆がとれるものでない。ことに私には、更らに、過ぐる一年あまりの私には。

創刊にも二號にも、天華香洞錄や、私の祈りや、日記は揭載された。しかし何れも我内省か、獨り言である。何だか讀者に對して語る氣になれぬ。

あちら向いて語り往くのを、あとから聞いて書かれるのはまだもよい。ふりかへつて語るには私はあまりに未製品である。

しかも『光』は嚴然としてあざやかである。もしも『光』の名によりてなら、隨分思ひきつたことも云ひ得ぬことはない。私は此明瞭なるお導きによつて動かされ且鞭打たれてゐる。隨分手ひどくいぢめもされる。純粹な生活(一燈園)に居ればなぜ複雜な處(宣光社)へ奉仕せぬかと攻立てられる。複雜に入り足らぬときは『勇なく明なきもの』と呵せられる。少し囚はれると『危い』といはれ、次第に囚はれて往くと汝般若の慧なしと叱られる。歸らんとすれば新たなる誓ひの義務をどうするかと咎められ、死に至るまで果さんとすれば、『光』を消して何の義務の消却があると詰責さる。天香一度び棄恩入無爲の誓ひを立つ、「私」の義務に對する取さばきに躊躇するものではない。しかし法財は苟もするわけにゆかぬ。法財を保護する爲めの擁護助は、その財と身とを問はず、決して苟もしてはならぬ。しかも形は普通の經濟と同じき是非海中の事、順逆あり權利義務がある。若し久敷我名に預りて之れを扱ふとき、無所有であるべき純粹生活(一燈園)と混雜して、躓きを與ふる事が少くない。

一燈園生活は根本祈禱である。これは何等かの姿に於て、一度は是非に試みねばならぬはずのものである。否是丈で生涯をつき通しても差支はない。通すべきでもある。しかし我等は此生活の生命をもつて、麻の如くに亂れた世の中にゐる兄弟を迎へにゆき、また整理をしにゆかねばならぬ。之れをあざやかに整理することが出來るなら、今世界中の要求してゐるあらゆる改造運動の目的に正しく答へるものである。

今のまゝでは世界が落付かぬ。さりとて、兎に角破壞しようでないかといふ運動は、あまりに其場逃れであつて、他に方法がないとしての已むを得ざる反動であるは爭はれない。『マルクスよりクロポトキンへ、クロポトキンよりトルストイへ』は當然の過程であらう。しかし私等は更らにトルストイより『不二の光』へといひたい。かう假りに定めて、而かして今現に我等だけこの『不二の光』の心、身、生活、を(少しでも)證明して、願くば此過程に於て少しの破壞もなく戰爭もなく、思ひ切つての相敬互讓を以て、直ちに一切に

何の苦痛もなく、理想の實現を見るやうにと祈りたいのである。かうした事からして、純粋生活の他に社會組織及經濟組織の改造について、種々の試みが必要となる。たとへ鵺のやうに思はれてもこれがなくては、單に傳統的宗教のやうになるか、または遁世の出家やトラピストの樣になる。

複雜な生活が戀しいのではない。一燈園生活は毎日色々の處へ出入する。泥中にあつて白蓮のやうにでもあり得る。複雜が戀しかるべき筈はない。しかしもし泥にまみれる事がいやであるなら、不二の光にふさはしくない。戀しくはないが、他の爲めならば逃げることは出來ぬ。我等は無論現在のまゝを肯定してはならぬが、又囚はれた運動に同ずることも出來ぬ。からして傳統的宗教と、トラピストと、物質運動の外に、最も強き最も徹底したる、しかも最も平和な大自然の、無爲無作の光動が必要である。我等はそれを祈つて歩むべきである。

一燈園の同人は種々の因縁に催されて、今之れを試みてゐる。一燈園（無所有の清規）と宣光社（假所有の規範）を色々の姿で重ねてゐる。殊に私は最も露骨に最も危い處迄舟を押出して多くの同人や他の友人に心配をかけてゐるのである。

若しこの二つの要求をあざやかに了解してくれる人達は、たとへ私の態度にやりすぎやむりがあつたとしても、大體に於て許して呉れられよう。しかしもしその必要を感ぜぬ人には私の二重人格のやうな態度は、たとへこれが財物を扱ふ機關が法人として獨立するまでの間のことにしても、不思議に思はれるは當然のことである。

よかれあしかれ、是までの私には仕方がなかつた。一燈園としては西田天香、宣光社としては西田市太郎、又天華香洞としては乞子詰などゝ、芝居ぢやあるまいし、何だか人を馬鹿にしてゐるなどゝ人の思はれるのも無理はない。けれども何とも仕方がない。わるければ責めて下さい、それで捨てられても勿論少しの不平はない。無論お詫は出來るだけする。

以上のやうな事がかなりにはつきりせねば、筆をとり兼ねる事となつたのです。

『光』のあらはれでは、知つてもらひたい事が少くない。しかしそれを私の口から云ふとさはりになる。何か自慢でもするやうにあたつて。默すれば足らず、話せば過ぎる事となる。共に躓かざるやうにすれば幸ひであるが、是が中々面倒である。第一私の德が足らぬ。

時々師といふ事を書かれます、先生とはざらに青年連から呼ばれます。年も大分逞ふからでもある。どこやらに聞いて嬉しい氣持もする。しかし淋しい感じが常に勝ちます。始めは一々斷つたが、それも煩にたへず。また思ふ、先方は先方の思ふまゝだ、自分の心でうけねばよいと、強て無頓者を裝うてゐた事もあつた。され共雜誌などにレイ／＼敷かゝれると又内輪の編輯がそのまゝそれを書くとなると、何だか私は落付かぬ。私は天香さんで澤山です。先方から先生といはれると又私もいはねばならぬ。互ひに名を呼びたい。それを書

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

きたい。何とかいて來ようとも編輯では天香さんに換へてしまふことに出來ないものか。でなければ雜誌に私からは顏を出しにくい。隨つて筆とることも出來なくなる。何も私丈が先生ではない。信行する人は私からも先生である。どうか互に兄弟でありたい。さう呼びたい。と、こんなこともたのんでみたい。

思想だけを扱ふときは樂である。同時に實行するのはさう氣樂ではあり得ない。やり切ればさうでもないが、腰をきるまでは少々骨がおれる。けれ共若し實生活の上にあらはれぬ事ならば、別に私等が試みる必要はない。實生活にあらはさうと思ふか、又あらはしたことを書かうとするときは、そのありのまゝの描寫は、隨分私などには骨が折れる。新らしい複雜な建設的のことは、その小さい事のうちにも誠に微細な苦勞がある。それは皆さんも經驗されてゐる事であらう。とても私の筆にのる事でない。

或人は云はれる。その苦勞をそのまゝ書くなら一段皆の參考になる。ハツキリしてからよりはナルマデを書きなさい。と。是も一應は尤なれども今迄の私には出來なんだ。

園のおつれは段々に殖えてくる。問題は段々に必要にせまられる。その火をその燈をといはれて求められる。それに私は一燈園を留守にして、はてしなく宣光社の事で悶へてゐたのである。はつきりしてから書かう。宣光社について市太郎として、あやまるべきはかくしてあやまる。義務についてはかうして盡さう、これからあとはかうして奉仕しようと、すべてをきめてから書く事にしよう、と、とうとう今迄延び延びになつた。私が何か書かねば光は出さぬとなるので、つひに私の爲めにかく延びた。二號のあとがかくも後れたのは、全部私の罪であります。お許し下さい、お詫をします。

○

大體に於て一燈園生活は、そのほんたうの使命をかしこめばかしこむほど、他に對して宣傳がましき態度を取るはふさはしくない。深く〳〵祈れば(懺悔奉仕の信行をはげむこと)愈自分の魂もあきらかになり、また『光』があざやかに出で延いて樣々に光流電波を起します。物心兩面に亘る信行であるが故に精神的のみならず現實の問題をも、茲からは何でも整理が出來ることになる。けれどもそれを園生活者自身が、人に對して宣傳がましくいふのは、どうしたものか落付かぬ。客觀的に見る人が、見るに任せてうつし出すには適しても、主觀的にはうつすに樣々の困難がある。何の爲めかを此頃だん〳〵考へたが、それは世界が違ふからである。今に至て思ふ。信界の事『光』の世界の事は之れを實に證明する事の外、人の世界で人の言葉ではなしの出來ることでない。すゝめばすゝむほど已れの不德を知り、罪をおもひ、『光』のあざやかさの前にひれふすやうになりゆくものである。からして自分のうれしさをよろこび、『光』を嘆美しては詩となり、自省となり、反省となり、已むを得ずんば尋ねらるゝに應じてその模

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

樣の萬一を誇張して答へるとか、又その押さへきれぬありがたさの事實を己れが記錄に殘すことなどは出來ようが、之れを人に書いたりしてきかさうなどゝは中々になりかねる。それは自分がいつも罪を感ずるからである。それがおめずに口から出るとなると、それは『光』がそのまゝ出て、むかしの聖者達の已むに已まれぬ獅子吼となるのである。この聲を此生活者は隨時隨處にきかぬでないが、それを此口や筆で人にいふのはあまりに私には我身を省みぬ不遜な態度であると思へる。

人の世界のあらゆる問題を回避して別の『光』の世界に赴くのでない。今の世のあらゆる問題の解決を求めてこそ光の世界へ赴くのである。さればさうした生活を徹底さすことが一番に有効な解決法であるとは信じてゐる。でも時々は人の世の問題に就いてあらゆる階級の眞劍な態度や主張を聽きもする、そこにも動かぬ道理がありはしようが、どうもはつきり消口（けしくち）がとれさうにない。あだかも大勢の人がさはがしくするのをしづめん爲めに、大きな聲でしづまれ〳〵とうなつてゐるやうな感じもする。詳かに考れば共咎めてゐる罪は咎めるものも同樣にもつてゐる。更らに考へれば、正直なところ自分もその罪を詫びようとはせぬ、又改めようとはせぬ。それを知つたものから改めるが順當とすれば、咎めるものの改めぬは一段罪がふかいやうでもある。ミイラ取がミイラとなる、大抵は共食ひ共造りのものである。一人の生徒が他の生徒の他處見せるを先生に告げたとき、先生が告げた生徒の他處見せるを注意した話しは、小供の事ばかりでない。ほんとにほんとに世を理想的にしようと思へば、取りあへず自分が其罪を改める必要があるのでないか、次には自分の家族から。

「それが出來ぬから一時に社會を改造するのだ」といふ議論も一應の道理はあるが、恐らくは改造の第一日の日からまづ自分がそれで滿足せぬ事になるかも知れぬ。然しその時滿足が出來て新らしい節度にすなほに從へるものならば、今の組織のうちからでも一人乃至一家庭丈が悔改めの生活が出來る筈のものである。

私は改造がいやなのでない。何人もいたくない悅ばしい方法でしたいのである。空想といはるゝかも知れぬが、私はさうは思はぬのである。何れの階級の人も心の底では眞の自由を求めてゐる。解放しても大丈夫な生活、他がどうなつても自分は光榮であるといふ生活を證明して見ずには、一の階級が他の一の階級の要求に悅んで應ずるわけにゆかぬ。罪あるものが責められるは天の道である。惡い主義や組織はサツサと改めねばならぬにもせよ、其改める方法の上に新らしい罪を重ぬることは考へねばならぬ。世界の大勢もある、囚はれた舊夢は思ひ切つて急に覺めねばならぬが、その覺ますに最もよい方法は新らしい罪を重ねずに舊い罪を消すことである。今迄の歴史にその樣な方法で改造されたことはないといふ人があるかも知れぬが、歴史的になくても、新らしくやれる事

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

がないとは限らぬ。眞に一人が祈る力は眞に一人が怒る力よりは强い。かくも澤山に總立ちになる力を眞の祈りにかへる事が出來るなら(眞の信行不二の祈りなり)理想は一滴の血を見ずに立所に實現して、それこそ世界への眞の貢献になるかと思ふ。正しい正しい道の上よりすることでなうて動くは、强さうで弱い。私はかうした考から矢張り悔改めの生活に還る。人の世界の問題を回避するのでない。成就したさの爲めに別の生活に還るのである。さうして此生活は一切に對して已れの罪を感ずる。先つ悔改めたい、悔改めの生活をしたい。そうしてそのゆたかさを味ひたい。もし大丈夫ならば證明したい、さうして皆にそれに還つてほしい。すれば今の一切の問題は根底から解決される。かうした祈りを持つて奉仕はするしかしどこまでも已れの罪を等閑にするわけにゆかぬ。何のいとまありてか他を責むるひまがあるか、又何の德ありてか他に對し權利をふりかざして奪ひ取ることが出來ようぞ。かうしたことから、たゞ〳〵自分を責むる事となる。それが懺悔奉仕の生活となるのである。他に對しては周くして黨せずとなり、何れの階級にも「どうぞ無理にならぬやうに」「已れの反省を怠らぬやうに」「他より責められぬさきに已れの非を悔改めるやうに」と合掌し祈る態度となる。かうした理由であるからして一燈園生活のもやうは自から宣傳的には書くこと出來ぬ。已むを得ずんばありのまゝを通信するか、緣に觸れた人又は第三者の筆によつて描寫されねばならぬ事になる。たとへ一燈園の記事中に議論がましき事があつたり又宣傳めいた文字があつたりしても、それはその人自身の內證の所感であつて、他に對し高所よりさけぶやうのものでないことを承知していたゞきたい。

之れに反して宣光社はさうではない。つまり幾分この生活をまとめ又は他の求むる人に紹介し、力となし、或は道場を提供し、雜誌を出し、經濟問題を整理し、地上に建設的の事を種々取扱ふ。之れは權現の立場である。假りに所有すればそれを大切に保管もする。一燈園の生活者と一般の社會との間の連絡ともなる。全く中立ではあるが何れよりも相談の相手にはなる。場合によればその懺悔奉仕より出る建設的態度に就ての宣傳もやる。隨つて此『光』の雜誌も宣光社にて經營し一般のそれとは違つた試みを種々の方面に試みようとすることになる。

私は宣光社の組織について頗る興味をもつてゐる。一燈園生活がその不二の光をもつて宣光社經營にまで往くことに新らしい生命を感じる。しかし仕事はそれ〳〵當番があります。私は大方もとの十字街頭に歸らせてもらうて、一燈園や宣光社へ常に托鉢することになるでせう。當番にはそれ〴〵責任を負うてやつてもらへる事と思ひます。隨て此雜誌も宣光社の方で出して、種々の研究や又宣傳もやることになるでせうが、茲では互にかうした風に力になりあつて頂きたい。私も宣光社の方では必らずありのまゝを此方から云うたり書いた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

りすることにします。

内外の樣子をみますと、容易でない時であります。人の心の落付かぬこともおびたゞしい事です。祈りの方は祈りの方で益深く至純であらねばならぬと同時に建設の方も極度の緊張を要します。

今日からあらためて天華香洞にかへります。下坐を行じさせてもらひます。そうして玆から過る二年あまりの種々の義務をはたすべきははたし、あやまるべきはあやまり、新らしくすゝむべきはすゝませてもらひます。どうせまだ〳〵不純で複雜でせう。しかし段々にはつきりするつもりです。皆さんのお祈添へをねがひます。

天華香洞身は一切緣の下の力もちなり。そのたましひの結晶なり。その結晶こそ平和の生命なり。されば仕事をしたいものに對しては無理にとめもせず。若し求められなば光をあたへよ。全く光によりてとなるとき已と共に天華香洞に歸るべし。歸る能はざるものゝ爲めに其階段をあたへよ。

我は力の泉たる光を守るべし。一しよに死なんといふ志を起さしむべし。して如何なる苦勞にもたふべし。

（天香さんの日記から）

知ることと知らしむること

西田天香

『眞理がわかる』といふことは、この上もない尊いことである。けれども、『其眞理を人にわからせる』といふことは更らに尊いことである。殊に一般の階級にわからせようとするときは、實に千差萬別の方便がいる。あゝといへばかうといひ、かうといへばあゝといふ衆生の心想に應じて、來られるやうにして引よせようとするのは、並大抵のことではない。『往還二種の利益』といふことは、全く生々世々かけての大事業であつて、私共の一知半解のものゝ、知つた顏していへる沙汰のものでない。

迷ひ易いものは一神一佛で強く引つけねばならぬ。でなければグラ〳〵して仕方がない。というてたゞ一神一佛とすれば名や仕組の違ひで互に議論をしたくなる、一佛敎のうちでも大日、彌陀、觀音、勢至となり、藥師となり不動となり、妙見、辨財天となりして、種々の方便とあらはれて御座る。何のその間に違ひはないが唯求むる此方の心の程度と時によりてあらはれて下さるまでのことである。けれども是は兎もすれば、多神敎偶像敎とも見える。佛敎以外からの非難のみならず、佛敎内でも色々にいふ。法華一乘にあらずんばというたり、彌陀のすくひの外に衆生は救はれぬというたりする

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

けれども要はその名にあらで信心の純不純にあるまいか。法華一乘の南無妙法蓮華經を唱へてゐて爾前の敎よりも更らに低級な内容に滿足してゐるものもある、その反對に、藥師さんを信じて乾坤獨露してゐる人もある。彌陀の救濟は吉日良辰を選ばずといひながら、吉凶をうれひてゐるものがあると同時に、不動を念じて一切禍福を超越するものを澤山見てゐます。名でなく宗乘でなく唯一心であるといひたい氣持もする。若しそれ智識的に神の内容(役目)を調べたりする人にはそれ〴〵の佛の願をしらべる必要もありはする、けれどもさうなれば皆一佛一神のうちからあらはれて、衆生の根機々々に對して應病與藥されたもので、まことにその内に一糸不紊の慈悲がある。何一つとして粗末にしてはならぬことであるにちがひない。生かぢり、一知半解の時には此扱ひが六つかしい。高い一本調子の所にのみゐてのみ、一切人類が救はれようと思うてゐるのは、全くお目出度いといはれても仕方がない。宗教がすぐにミイラの樣になつてしまふのは是が爲めである。

ぢやというて時代にこびてはならぬ。衆生の要求に少しの妥協をもしてはならぬ。けれどもその時代をも呑み込む必要がある。どの要求にも相談にのる必要はある。そうしてどうすれば、そこからほんとの一乘玄旨に直入することが出來るかといふことを、よく知りよく扱ひよく力をあたへることが必要である。一面に最强くその中心を握らねばならぬと同時に、他面どんな處へも、どんな思想へも一度びは調子を合せる雅量が大必要である。中々むづかしい、又あまり輕々敷やつて危いかも知れぬが、必要は必要であつて、むづかしくてもやらねばならぬ事である。

今朝代々木の草房で、ふと聖壇に向ひ椅子によつた。主人の宮崎安右衛門さんが、飾り付を換へられた。ふと見れば上にキリストの山上の祈りの御姿の寫眞が安揭されてあつて下には釋迦の坐像が安置されてあつた。キリストの熱禱はなるほどその魂が地上にあるとは思へない。この力これで地球の半分を引きつけたのだとをがんだ。また釋迦の萬德圓滿の姿、一寸見ると頗る要領を得ぬやうに思はれるほど個性を泯滅させて、そこに何ものをも、とろけ込ます光を包まれてある。此光此德またよく地球の半分を明るうされた。

けれどもどんなことにも一利一害は免れぬ。否人がかたよつてより見ない。見るものに力がない爲めに全體が見えぬ。キリストにはキリストの長所があつて釋尊には釋尊の特長が高調されたがやうに、その半面を見うしなうた不明がある。これが西洋思想東洋思想となつて一得一失をあらはす事の原因となつたかも知れぬ。

また、こんなことも思うた。なるほど是では十字架にのせられる譯だ。此畫にあらはれた、此畫家があらはしたキリストには唯純な神にのみ往く方ばかりな、いはゞ一本調子な處がある。これが神に往くには本當である、けれどもあとのもの

が、どうすれば一切の衆生がついて來られるかといふことには、「信仰うすきものよ何ぞ疑ふや』とおのが自信をそのまゝに喝破する外、餘計な方便を用ひられなんだ。否それはあまりに短い法生涯でそこまでは手がまはらなんだかも知れぬ。そこが實に後進のものゝよく注意せねばならぬ處である。十字架にのせたのはその時のわからずやが乘せたのだが、今でも實はキリストを十字架にのせてゐる。キリスト教の名によつてゞもキリストは十字架にのせられぬ事はない。むしろ今の方がまたキリスト教の名によつてするだけが、更らに殘酷にキリストを十字架にのせてゐる。昔しは判然と十字架にのせた、かうしてすぐに信的反動、インスピレーションとかりバイバルとかいつた風な大刺戟が起つた。つまり信ずるものと信ぜざるものとの分野が判然と分つてゐた。けれども今はさうでない。キリスト教はキリストらしい事もいふ、併し肝心かなめの處になると、キリストの名でキリストのいひさうにない事をいふ。『地に泰平を來さんにとにあらず劍を出さん爲めなり』とあるというて戰爭をしようとする、『働くものがその償ひを得るは宜なり』とあるというて、葡萄畑にて働けるもの・ゝ神よりの償ひを裏切るやうな解釋をしてドシ〳〵權利を主張しようとする。『己れの子のみ愛するは貢取りもしかせざらんや』とかいてあつても、事實に於ては己れの子を愛し立派な人物にするのは親の義務であるといふ。立派な人物にするとは、必しも高等教育を今の方法にて授けるとでもあるまい。キリストは、「學者とパリサイの人よりも』何とかいはれたではないか。肝心かなめの處をキリストの形へる通りせぬのが本當と思うたらキリスト教の名でせぬがよい。勝手のよい處は取つておいて、惡いと思ふ處をすてゝ進歩した解釋のやうにいふのは、キリストを二重の十字架にのせるものともいふ事が出來る。前には敵となつてキリストを十字架にのせた、今は味方の顏をして十字架にのせてゐる所もある。是は全く後進の私らの愼まねばならぬ事である。が、また一は僅か三年の間の御傳道で一本調子の處があつた外、如何にすれば皆が此本當の處迄來られるかといふ事についての方便を考へてもらふ、ゆとりがなかつたのかとも思はれる。

釋尊の五時の御說法は全く此點を盡して居て下さる、決して始めにそのギリ〳〵の處を說かれなんだ。一乘妙法や拈華微笑の境涯は、それを呑み込めるやうにしてから說き出された。それでさへ法華を說く時には多くの弟子さへ席を立つたとある。否立つものを立たせてほつておけとまでいはれた。拈華微笑は唯摩訶迦葉にのみ傳はつたと云ふ調子である。如何にその傳道振りに周到な用意を拂はれたかゞ分る。けれどもまたそこにも釋尊を佛教の名で十字架にのせてゐるのはキリスト教のそれと同じことになつてゐる、五時の說法は畢竟究極に導く爲めである、究極に到るを妨ぐるそれになつてはならぬ、けれども東洋各所にある佛教は大抵中途に止まつてゐる樣にも聞く(是は專門の人にきいてもらひたい)。またさ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

う云ふと法華などでは、それ見たことか爾前の敎は道中ぢやといふかも知れぬ、私はさういふのでない、必らずしも法華宗によらねばならぬとか、法華經によらねばならぬとかいふのでなうて、どの敎からでも一乘に拔けてほしいといふのである。(實はかうした事になると私は專門の方に讓らねばならぬとであれど)。五時の說法は誰にも一通り必要なのであるまいか。法華の人かて五時の說法を必要とする。旣に宗敎がいるといふ迷へる狀態であつた以上、何等かの姿で五時の說法がなくてはならぬ。からして宗旨によるより扱ひ方による。扱ひ方が惡ければ已れまづ邪見に墮ちて、謗法のみをして已れの五時の說法を必要とするものであるに氣がつかぬ。日蓮上人が必しも淨土の信心を必要とする時間を少しも持たなんだとは思へぬ。若しも一瞬間でも『我』と執する時間があつて、向うに南無妙法蓮華經の戒體を憧憬したとするならば、其時は淨土流の態度である。法然上人が、『取あへず南無阿彌陀佛と唱へて淨土へ往生して靈山會上で彌陀觀音勢至と商量して法華を調べよ』といはれたのは、必しも死んでからといふ事ではない。よしさうであつたとしても周到なる法華の行者であつたと云へば事はない。是等は要するに、法の看板のみに執着して衆生の心想、も一つ手近にいへば已れの內容を反省する力の足りない事から起る事である。無邪氣であるともいへるが、人に對して說くのには謹まねばならぬと思ふ。

要するに釋尊は用意周到であつた。これは又後進をして一氣呵成にその往かねばならぬ所まで往かしめなんだことにもなつた。寂滅の境涯は圓滿であつて又同時に中下品のものに安價な妥協をさすることになる。

何れにしても救ひ主に對しては感謝せねばならぬ。それは何れも慈悲のかたまりであるから。唯後進が、勝手な處のみを取り入れて都合の惡い處を忘れてはならぬ。この表にあらはれたものゝ外內在の『光』にふれねばならぬ。一つのあらはれに執はれずに『不二の光』を見逃さぬやうにせねばならぬ。いはれたことのみをきかうとする外爲された態度を實行せねばならぬ。キリストと釋尊とはこの根幹に於て一つである事を見逃してはならぬ。西洋思想と東洋思想のそのもとの一つである處を體得せねばならぬ。

そうして眞理といふものは知つただけでは足らぬ、その眞理をどうすれば皆の階級が味ふとが出來るかといふ事を明かにせねばならぬ、明かにした以上は、それを行はねばならぬ。それを行ふためには身を捨てねばならぬ。そこまでしても其のしたといふことを忘れねばならぬ。否したといふ『我』があつてはならぬ。たゞそこには『光』のみがあるのでなければならぬ。この『光』が心、身、生活、やがては一般の組織にまで延びるとき一切の問題が整理されるのである。精神運動とか物質運動とかの別を思ふのでは兩方とも本當でない。東洋とか西洋とかその通り。よろしく人類は太原不二の『光』に歸らねばならぬ。

一〇、六、一〇　於代々木草房

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

思ひ出のまゝ

鮮生　李命錫

思ひ起せば恐ろしい
夢は十八歳の軟弱なる少年時代
濁流滔々として流れ
全社會は之れに浸され、之れに醉はされないものはない
此時私は農校を出て校長の世話により
片田舍の小學教員となつた
哀れなる朝鮮社會のどん底を見
さかのぼつて四千三百有餘年の歷史を尋ぬるに
檀君箕子の教は既に三千年の昔に葬られ
千有餘年の永い間朝鮮社會文明の根底をなし居りし
佛陀の教は五百年前に其姿をかくし
孔子の教を奉ずること五百年間
其骨子は既になくなり
今殘るもの只其形骸のみ
二千萬の民は
遠く檀君箕子を忘れ
近くは釋迦孔子を失ひて
殆んど荒野にさまよふ羊群の如し
內に希望は絕え外に賴る處はなく
人心は墮落すること其極に達し
安逸蓄妾を最高快樂とし
酒色に沈溺すること日常生活であつた
わづかにふき出でた若芽の如き私は
此の恐ろしい荒波の中に
何にも意識することなく帆を上げた
方向すら知らない楫なき舟は
怒濤に倒るゝこと當然である
沈溺すること幾度教育は遊び半分
日々生活は酒肆に遊ぶことが第一義のやうであつた
此處に私は教育者としての立場で
內面に於ては常に良心の呵責を受けてゐた
此の惱みがしからしむる處か
千九百十七年の春
キリスト教を奉ずることになり
固く決心してキリスチャン生活に入つた
滿四個年間の信仰生活
矛盾と撞着には包まれて居つたけれど
心ひそかに力強く感ずる處あつて
斯教に意を立て荒れはてたる
東華(朝鮮の古名)の故士をば
神さまの御前に獻げて
御榮の現れる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

御光の照り輝く處の
新しき天華の樂土に易へたかつた
希望は胸に燃えた
今は戀々として父母の側にぢつとしては居られない
其上自ら省みれば才鈍く智淺く
凡ての點に於て不足を感じ
愈々決心して望みの枝に身をまかせて
懷かしき故郷に
離れ難き愛する者をふりすてて
東方美の國へ身を投じた
京都同志社に入學を許され
神學を修めること一年餘
何も私は深く立入つて研究したのではない
故に之れをどうかうと云ふ批判を下すことは出來ない
しかし私には冷い氷の様な感じがして（今から見れば自分が冷たかつたのだ）
靈魂は益々渇く様におぼえ
此に永遠のそれを掬むこと能はず
永遠の安住地を得ることが出來ない
不變の眞理を把持することが出來なかつた
玆に私は飢ゑ渇くこと甚しく
殆んど渇ける鹿が
谷水を尋ぬるが如くであつた
實に淋しかつた

方々の寺々より響く鐘の聲は
益々我が心を寂しき夕暮の沙漠に導くのみ
或人が青鳥を尋ねようとして
野原に山に又流れる川に出でた如く
私も赤身曠野に出て神を探さんとした
尋ねて逢はれたのは天香先生
實は天香先生に逢つたのは去年の春
京大青年會館にて
キリスチヤンの祈りの席上
話されたこと約二十分に過ぎなかつた
御自分の實生活談であつた
其時我が胸を強く打たれたのは
力強い眞理の實證者であると云ふことである
露宿乞食を感謝と喜悦の內に甘んじ
へりくだつて懺悔の涙にむせびつゝ
神に仕へ人に奉ずる其姿
あだかも神の羊が綠草の上を歩むが如き感じがした
そして先生の生活は
徹頭徹尾神人合一靈肉合致の顯れのやうであつた
理想と現實とのかけ離れた
不調和の生活でなかつた
常に天華の樂國に安住し
不二の光明を放たるゝやうに見えた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

私は叫んだ
此處に見出した！
我が靈魂の渇きを癒すべき光
生命の道を
失はれしエデンを！
私は見た以上はぐづ〳〵してはゐられない
走つて來た走つて來た
此の光に何物か溶かされないものがあらうか
平和の根本は此處だ
お互に此れを握りませう
世間が命がけでやかましく云つて居る
民族間の親善問題は此處にある
此光を度外して平和を求むるは愚と云ふ外はない
六ケ敷くなつて居る日鮮の問題も此處に始めて
圓滿に解決せらるゝのである
私は喜びます感謝致します
此問題に至つては他に種々な複雜な點がありますから
後日稿を改めて敢て皆樣の御意を得たいのです
暫時の間此光を握つて故郷に歸り凡てを整理して
又參りますどうぞ神の名によつて使つて下さい　合掌

「これ人を見るなり」

和辻哲郎

私は十二年前に田端の火葬場で西田天香氏のうしろに佇んだことをはつきりと覺えてゐます。私たちの敬愛した魚住影雄君の遺骸が、あの冷酷な感じのする鐵の戸の前に据ゑてありました。天香氏は靜かに、靜寂そのもののやうに、合掌して居られました。

その後私は天香氏について人から多くのことをきゝました。その生活その思想もおぼろけながら解つてゐるやうな氣持でゐました。さうして「聖者」といふ名にふさはしい人をそこに考へてゐました。苦しみに打ち砕かれて我々の慰めが何の力にもならないやうな人に接する毎に、いつも私の心に浮ぶものは天香氏の姿でした。

しかし私自身は自分の方から天香氏に接して行かうといふ欲望を起しませんでした。そこに「救ひ」があることを知つてゐながら、「救ひ」を求めてゐる自分がそれを避ける、――明かな矛盾です。が自分にとつてはどうすることも出來ない（と感ぜられる）矛盾なのです。私は他にも道があるといふことを考へます。そのくせこの道こそ本道だといふ感じを脱れることが出來ません。從つて「自分をこのまゝ押し進めて行つていゝ」といふ考と、「自分をどうにかしなくてはならない」

といふ感じとが、絶えず自分の內に對立してゐるのです。この「あれかこれか」の迷ひを自分の內に片づけて、たゞひたすらに聖者の道に向ふ心持になれたとき、私は初めて天香氏につくことが出來ると考へてゐました。

が因緣は私にこの問題を飛び越えさせてくれました。私は自分の迷ひの故に天香氏の生活を自分に對する鞭として感ずる。しかし天香氏自身はあらゆる人の前に鞭を除く者として現はれやうとしてゐられる。結局私は「あれかこれか」を片附けることもなく、また何らか特殊な瞬間を待ちまうける氣持もなく、たゞ、逢ふやうに取りはからつてくれた友人の好意にひきずられて、慢然と天香氏に逢ひました。さうして自分の疑惑や迷ひについて敎を乞うでもなく默つて天香氏のそばに坐つてゐました。天香氏は一座の他の人が引き出すまゝに自分の身のまはりに起つた出來事をそれからそれへと話されました。私は一人の物柔かな好々爺が、極めて天眞な話しぶりで、自分の手柄話をしてゐるのを見たのです。

それが私には意外な光を與へてくれました。

この何でもない一夕の坐談、――そこで話された出來事は大抵私が傳へ聞いてゐたこと、或はそれに似寄つたことに過ぎませんでした。そこに語られる智慧も私が曾て書物で讀んだか、或は自分で考へたかした智慧に過ぎませんでした。私は何も新しいことは聞かない、――しかも私は全然新しいことを見たのです。私の口から出れば何でもない言葉が、「この人」の口から出ると異常な響を傳へる。私の旣に知つてゐる出來事が「この人」によつて物語られると、異常な美しさを感じさせる。同じ言葉、同じ話が、もはや同じでない。こゝには議論の餘地も說明の餘地もありません。議論しやうにも論理的には同じなのです。しかも違ふのです。私はしみ〴〵と感じました、「これ人を見るなり。」

私は「この人」に於て、これまでに得たと思つてゐた自分の智慧を、改めてうなづくことが出來ました。「この人」を見たために、丁度この頃讀んでゐたソクラテスと耶蘇と道元の言葉がなるほどと思へました。私はそれをこの時初めて讀んだわけではない。しかし初めて讀んだやうに新鮮に感じました。例へばプラトンの描いたソクラテスは云ふ――

私は信じてゐる、私の神に對する奉仕に優るほどの幸福に、諸君は本市に於て未だ曾て逢つたことがない。蓋し私が步き廻りながら執掌するところは、若きも老いたるも、諸君の一切に向つて、身體と財寶とに對する顧慮を、靈魂の最高可能の完成に對するそれよりも優れて、またより熱心に、することがないやうに勸告すること、並びに德が富から生ずるのではなくて、寧ろ富及ひ一切の福は、個人にとつても國家にとつても、德から生ずる旨を附言することに外ならないからである。

またいふ――

死を恐るゝとは、自ら賢ならずして賢人を氣取ることに

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

外ならない、それは自ら知らざることを知れりと信ずることだからである。思ふに、死とは人間にとつて福の最上なるものでないかどうか、何人も知つてゐるものはない、然るに人はそれが惡の最大なるものであることを確知してゐるかのやうにこれを怖れるのである。

そのソクラテスは曾て何人からも「報酬」を受けたことはなかつた。貧乏であつた。さうして「樂しき希望」を以て死に對した。こゝにも一人の「眞理の證」がある。彼の言葉の行と行との間には、「眞理の證」としての「人」が生きて語つてゐる思はず「この人を見よ」と云ひたくなる。

それは私が「人を見た」お蔭と思ふのです、私は「この人」の前に跪拜することによつて、眞理に、神に、跪拜することが出來ると思ひました。「野の鳥を見よ」といふ福音書の言葉に示された眞理は、今や血となり肉となつて、我々の前に、我々と同じき人間の姿に現はれてゐるのです。「おのれの如く汝の隣を愛すべし」といふ言葉の眞理も、今や命令としてでなく大いなる歡びの生として我々の前に働いてゐるのです。

それではお前は何故「この人」に從はないか、と人は云ふでせう。いや從つてゐるのだ、と私は答へます。が「この人」に從ふといふことは必ずしも「この人」になるといふことではありません。私のなかには依然として舊の通りの「あれかこれか」が存在してゐます。それが片づくまでは「この人」にはなれません。しかし私は、いづれの道をとるにもしろ、とにかく目標が解つたと思ふのです。「この人」を通して。――私の前に精進すべき長い道があるとしても、「この人」を通して目標を認めたとすれば、それは「この人」に從ふのです。私はそれを有り難いことに感じてゐます。「この人」に從つて歩いて行く内に私自身がどこに出るかは自分では知りません。ソクラテスが敎へたやうに、私は自分の知らない未來のことを知つてゐる如く信じてはならないのです。

しかしこれらのことは自分自身の中の問答であつて、他に對して云ふべきことではありません。他に對しては私はたゞ一つの言葉しか云へない。「この人を見よ。」

光とは何ぞや。考へる餘地のないものである。合掌して識れ、路頭に立つて識れ、奉仕して拜せよ、懺悔して禮すべし。已れ正しくなるとき已れを忘る、已れ如法となるとき已れを忘る。念佛するとき已れ念佛となる。祈るとき已れ空となる。此時山河大地と一所となり、已れの執苦雲を拂ふが如し。何と是をいふか、あとに我に意識して何とかその光景を銘せんとするなり。暫らく名づけて光といふ。

人之れに卽するとき活潑又潑溂、事理無礙事々無礙の體そなはりて信行不二なることを得べし。

（天香さんの日記から）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

詩三篇

柿の葉に笑はれて

宮崎安右衛門

ちらりと星の光のやうに
枯れたとおもうた柿の木の枝に
新芽が吹き出した。

自分は愕いた。
ヤア、産れたなあ――と、思つた。
オイ　柿の葉ツパよ
お前が大きくなる頃には
自分も大きくなつて見せるぞ――
立派な作品を創り出して
お前を吃驚させて見せるぞ――と叫んだ。

自分は毎あさ起きて柿の葉を眺めるごとに
少々不安と焦燥とを幽かにおぼえた
噫　斯くして一ケ月の後には
柿の葉ツパは　ぐんぐん成長していつた。
そのあひだ　自分は何もせずにゐた。

ある朝のことであつた。
ひとりの男が
柿の葉ツパに笑はれてゐた。
オイ　人間！お前の誓ひは何うした？
俺は毎日一分づつ伸びて往つたが
お前は朝ればぽ　夜ふかし　仕事もせずに
駄目だ　駄目だ
俺はお前に言つて聴かせる
お前がどんな仕事をしたと言つても
お前の仕事が　お光　の榮えを
顯はさないやうなら
駄目　駄目
一體今まで何を爲してゐた？怠けもの！

柿の葉ツパに笑はれた男は
首うなだれて
恥しさうに家に入つた。

マザーアース

地は饒かなり
オオ　われ　なんぢの愛を思ふとき
なんぢの　忍び深きに涙あふるるなり。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

地は儼かなり
あらゆる不淨を認めて民を生かす
オオ　われ　なんぢの愛をおもふとき
まことわれを産みし者の意志を識る。

自分に驚く

ハヽヽ
ハツと愕いた
友とふたりで途をゆくとき。
オオ、自分は自分の語りながら歩く姿を見て愕いた。
此の自分、歩く姿、語る言葉
誰が語り
誰が歩くのだ
此の見えざる力は何んだ
此力　此力！
オオ　この見えぬ力こそ
自分の全運命を支配する愕くべきものだ
自分は最う恐ろしくなつて
一歩も前へ歩むことが出來なくなつた。

——一九二一、六——

人間は先づどうした事にもひつかけられぬ事が必要だ。それには義務を何等かの方法にて、はたさにやならぬ。といふて一瞬間にそれが果たせるものでない。かうして懺悔をするがよい。懺悔は例の通り、心・身・生活の懺悔である。まづ此の不二の懺悔を躊躇せぬ覺悟を以て從前の事をあやまるなり（徹底的懺悔）。此時救はるべし。かくて極度の謙遜を以て（光をたゝへ、一足一足、不如法の生活より眞實の生活に歸るべし。此の歸るはたらきなき懺悔はほんとでなく、なやみて歸るは又危し。此刹那の信及證を我家として、あとは菩薩行の爲めに垂手するものと心得なば、一面に於て心なくさまるべし。され共此のこゝろ傲慢となる可からず。

*　*　*　*　*

朝四時下坐天華香洞にありて地藏三昧に入る。是れ我が一つのたのしみなり。佛前に歸りて一切を見る。十字街頭こそふさはしけれ。こゝよりして一切を觀ず、正し。見る處危ければ見る事また正しからず。

眞劍にあやまるといふことは、なやみをなくする事なり。なぜならば己を忘却するまでの捨身となるが故なり。死せよとならば死もいとはざるべし。許されなば一切に奉仕する也。是にて許されずば餘は（光に任すべし。

此結果一番能率のあがる奉仕振りをなすべし。六萬行願が徹底した奉仕か。少數の爲めに全力を擧ぐるをいとひはせぬ。併し全體の爲めには少數の贅澤な要求はあとまはしにせねばならぬ。

（天香さんの日記から）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

蹌踉記（古き日記帳より）

藤井悌

◇

水道橋にて荷車ひける馬のとぼとぼと歩めるに逢ふ。あくまで素直なる姿にふと心ひかれて打ちまもれば、彼もまた柔和なる眼をあけて見かへす。憐れなるものよ、彼は何事とも知らず此世に投げ出されたり。あたりを見まはせばそこに彼は生きてありしなり。轡をとられて彼は牽られ行きぬ。さていぶせく暗き槽櫪の間に四肢を折りまげてまどろむまもなく、見も知らぬ人の鞭うつまゝに、何故ともわかず日毎おもき車をひきて喘ぎあるく。彼はたゞ人間のために、吾等のために此の苦役に就けるなり。吾等は己が當然の勞を省かんがために彼を要したるなり。彼は自由に潑溂として野山を驅け廻るべかりき。憐れなるものよ、其のいかに素朴にして無心なる姿よ。濟まない！　吾は覺えず呟きぬ。洵にわが一日の生は數しれぬ無辜の犧牲によりて營まるゝなりき。

◇

昨夜夢みぬ。――猫と烏と凄まじく叫びかはして鬪へり。始め烏の勢猛くして猫はしば〱悲鳴をあけて踉めきしが、よき機を得て彼は遂に烏を摑みとりつ。皮を喰ひやぶりて肉の纖維をひき裂くまゝに、ピクリ〱と痙攣するさま慘毒を極む。見るにえ堪へず猫を追はんとせしが、否々地を替ふれば烏こそこの殘虐を敢てすべけれ、自然は冷やかなり誰かよく判かん、かく思うて吾は默然として凝視したりき。

◇

富者の暴慢や憎むべく貧者の兇險や厭ふべし。強者の專横や憎むべく弱者の奸諂や厭ふべし。而して其の境を顚倒すれば其の心亦た顚倒するもの、斯くの如きの人間悉く唾棄すべし。

◇

吾久しく無私の清淨境を望んで已まず、ひとたび此の小我を滅盡して洞然明白の不動地に蘇らんはわが衷心の願ひ也。されど小我の活動の如何に生々として潑溂たるを見ずや、かの洞然として明白なるもの却つて空寂々の空洞には非ざる乎心の墓には非ざる乎、性を枉げて作り做したる妄想境には非ざる乎。洵に本來の面目に還らんがためならば何をか爲さざらん、また何をか忍ばざらん、たゞ眞ならざるものを追うて此の性を涸渇し盡すは惜しからずや。

◇

忍びることなくして生くるの途なきか。寸毫も他の生を犯さずして生くるの術なきか。眼前の愛慾は尙ほわが足を地に繫縛す。而して精進の氣力やゝもすれば吾を見棄てんとす。生は熟れ過ぎたる無花果の如し、皮肉頽れて裡に蛆湧けり。なほ其の甘味を貪らんとする者は耻づべきかな。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

◇

苦しと叫ぶこと百萬遍するも依然として苦し。苦みを忘れんと努むるは愚にして怯懦なり。忘れては之に處するの途に疎からん。苦みに生きよ、苦みを味へ、苦しきを苦しとして受用せよ。苦しき時は苦む外に詮なき也、玆に解脱あり。

◇

更に思ふ、積惡の人何の處にか安きを得んや、四苦八苦當に然るべきの事、なほ其の苦みの弱きをこそ病むべけれ。自ら呵責するに專らならば何の遑か免るゝことを思はん。

◇

淺き人間の智慧を以て何をか是とし何をか非とせん、罪といふもの果して罪なりや、吾等生れながらに具するところ卑しといひ醜しといふも之を如何にかすべき。杻械枷鎖億刧を歷るも斷ち難し、善惡の辨を樹つるこそ迷ひなれ。かく思うて自棄すれば却つて心安きに似たり。されど再び深く省みよ、淨明一翳の曇りなからんは吾等が已み難き願ひに非ずや。吾等たゞ此の願ひに生く、吾等は現に在るところに生くるに非ずして當に在るべきに生くる也。疎まれはてたる生命に尙ほ一脈の床しさを留むるは、たゞ此の僞りならぬ願ひに非ずや。此の願ひ虛妄ならず、世に口惜しき下根の身も業盡きて大覺に入るの機なからんや。恥づべきは汝が精進の心猛からざるに在り。

◇

言ふべからざる寂しさまた迫り來たる。天の穹窿は今高く高く退きゆく。洞然たる虛窖に太陽ひとり赫々たり。天に行かばや、かの白熱に爛れ死なばや。

◇

一切の形は破滅を孕む　そは始めより破滅すべき約束に於て成れる也。朽ちたるものは速かに崩れよ、而して新しきもの躍り出でよ。形に注ぐ執着はすべて陋なり。

◇

破壞は勞少くして爽涼たり、補綴は事繁くして鬱陶し。絕望は却つて安心なり、辛く希求の維がるところ人をして最も煩悶せしむ。

物思歌

井箆節三

アスシシの聖者の如く物思ふ貧し心に街をあゆめり

恍惚と物おもひつゝ圓光を身に放ちつゝ街頭を往く

我と我が淸き心に癡くかな恍惚としてものおもふ時

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

對話 その一

松下吉衛

Y『どうも態度が煮え切らなく感じますね。』

K』そう見えるかねこ』

Y』あなたなんかにそうしていられてわ、全くしようがありません。』

K『でわ、どうしろというんだい？』

Y』陣頭にお立ちになることが望ましいんです。時が來ているのに、人がたりないのですから。』

K『僕も組織悪わヒドク感じて居る。人間の「生存」に對してわ衷心から敬いを持つて居る。」

Y『ぢや、なぜ勞働運動にお加わりにならないんです？ 今わグヅ〳〵している時でないと思います。』

K「僕も隨分考えた。君方はじめ友だちからも色々云われるしいのりのかたちについてわ、師匠にも幾度かたゞして可なり心を勞して來ているのだ。でも、やはり、今わこの外いき道がないという自信が勝つている。これわ、お互にようく考えて見ねばならぬことだが、勞働の結果を搾取し易い立場にある資本家の中にも人らしさが、ないとわ云いきれない。呪うべきわ資本主義そのものであつて、資本主義を呪わんがために資本家の中に輝く人らしさまで殺して了うことわ許されにくいと思う。實を云えば、この資本家の中に輝く人らしさから見ても、資本主義の呪うべきわ、勞働者側からと何等選ぶ所がない筈だ。で、この呪うべき資本主義の暴威に面して戰陣を布いている勞働運動にわ、人として深いいのりなしに對することわ出來ないし、又實に美ばな人がそれに參加していることも知らないでわないが、僕たちの立場も亦此際なくて叶わぬものゝ一であつて、僕たちが手をひいても代りの誰かによつて當然なされねばならぬ筈のことという自信があるのだ……資本主義の許されないことを認めつゝも、勞働者資本家いづれにも與せず、ヂーツと深いいのりに立つた生活――所有慾優越慾を基調とした社會に、最下坐を行じ無所有にして養われている事實わ、資本主義の存立と果して無關聯かどうか。近頃勞働運動淨化のことも問題にされてるよう聞いてるけれど、やはり、これとも沒交渉でわないと考えられるが、どうだらう。』

Y『そうですね、道理わそうなんでしようが……でも何だか物足りない感じが、私等にわしますね。眞劍で私心がないという點でも可なりの人が勞働運動者にもいます。』

K『それわそうある筈だ。』

Y『そういう人たちとあなたの立場とどう違うのです？』

K「問題の扱い方のように思うが、平面的と立體的と。』

Y『あなたわ、平面的より立體的の方がいゝとお考えなのですか？』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

K『それわわからない。今の僕わ今の立場の外、とる道が許されてないように感じてるまでだ。』

Y『質の貴さを知らないぢやないですけれど、量と時間を無視してわ、少くとも現實の問題にあたることわ出來ないと思います。』

K『それわそうだ。』

Y『社會的生産の時代に、資本家本位の個人的分配が如何に非理であるかわ、常識でも分つてる話でしよう。此の非理をかまわず押し通していこうという組織だつた力が資本主義にわ、具わつて居ます。之を析伏させようための神さまのお思召しの一つのあらわれと勞働運動を見ることわ間違いでしようか。組織立つた力にわ、やはり組織立つた力でぶつからなくちやダメなような氣がいたします。事態がこうやゝこしくなつて來た以上兎も角一旦外科療治を施さにや、うまくいきますまい。やつばり血を見なくちや……。』

K『僕たちの立場わ、外科療治と違うかな、血わ日夜に滴るのを見せられている。……爆彈に迸る血と十字架を染める血との相違わあるが。』

Y『わたしにわ何だかわからなくなつて來ました。』

K『イヤ僕にもわかつていないのだ。たゞこうしてる外、今わ許されない氣がしてるまでのことだ。』

閑古鳥と蜩

—舊作より—

池田龍一

向つ山若葉繁山ゆふさりて啼くかつこうのこゑかも深し

かつこうの啼くこゑ山に遠くして吾がよき友の子は世を去れり

眞寂しきしらせを持ちて吾が居れば啼くかつこうの聲山に遠し

ゆふざれば山風おちて遠くよりかなかなひとつ鳴く聲きこゆ

あしびきの山根の村のゆふざればけふもともしきかなかなきこゆ

つらしとは思はねどうれしきことも無みたそがれ遠きかなかな聞けり

山かげのふちにすなどる舟は去りゆふぐれ深き水の色かも

あをあをと岩根をふかみ行く水の見れども飽かぬ渦のまひかも

あしびきの山のかけ行く川深みたそがれ來たる水の音かも

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

一燈園だより

京都一燈園

『光』雜誌の編輯から一燈園だよりを書けとの事ですが、長い間のことで、何處から筆を起してよいかに戸迷ひします。兎に角園は入かはり立かはりして同じ程の人數です。二十人前後、此頃は女の方は少いが、園の人としてあちらこちらへいつてゐる人など加へると三十人もありませう。

周圍の籔がからつと刈りはらはれたのと、二段程下の屋敷に家が建つたのとで、前とは少し樣子がかはつた。當番は相武次郎さんで、評席は金川、谷野、岩淵、伊藤祐の四兄です內伊藤兄は青年會にあり、岩淵兄は秋田の曙一燈園へ往つて居られる。天香さんは東京へ往かれて、歸る〱といふ通知のみで一寸も歸つてこられぬ。濱村、保太郎の兩兄も秋田行、透石兄は不相變岡山縣大谷の製麵會社に奉仕してゐられる。叡山の無動寺へは河瀨の翁さんがゆききりで代る〲に一人づゝ往く。町への托鉢は例の通り。景氣のよい時も同じ奉仕、景氣のわるい今も矢張同じ奉仕の生活、よいかわるいかしれぬが、馬鹿に喜んで脫線もせず、又悲觀して寢られぬといふやうな事もない。

珍客としては朝鮮の李命錫さんが入園された、眞面目な方です。園の生活から、神を見て、此生活によつて始めて日本と朝鮮とが一つになる事が出來ると思ふといふてゐられた。此頃は朝鮮へ一寸歸つてゐられるが、遠からずどこからか『光』がかゞやく事であると思はれる。先輩のうちでは、此頃大阪市外に聖德洗心館とて乞食さんを教育してゐられる淸水誠一兄がきてくれられて、色々有益な話しをきかせて下さつた。宮崎安右衞門兄は時々きて下さつた。

天香さんが京都に居られても衣棚の杉本さんの家に托鉢のまゝで、こゝが一燈園の出張所のやうなものになつて訪問客の爲めには頗る便利であるが、園へきてくれられる機會の少いのは遺憾である。是も仕方があるまいと銘々直々に『光』を見ようとしてゐるのである。どうせ始めといふものは、こんなものであらう。

先々月同縣の粟田郡の特殊部落を改善された方々がきてくれられた。服部さん佐山さん外二人の方が一夜とまられて色々話しをされた。翌日佐山さんに下駄のなをしを教へてもらうた。天香さんも下駄を一足衣棚から持つてきて、かんかんと齒入を教へてもらはれた。佐山さんと服部さんは一切の道具を一燈園へ寄附して下さつた。二人の方も喜んでくれられた。世間の人は同情々々といふけれ共ほんとの一つになつて呉れる人はないといふてゐられた。そんな事には一燈園はよいつれになりやすい。難有いことであつた。

園には記錄といふものがない。中央集權的なきもちの絕體

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

にない處。誰れがきたやら又宿つたやらすら記錄がない。此頃少しやりかけた位である。園友は幾人あるかなど聞かれると何と答へてよいか分らぬ。天香さんは時々さうした問に答へて『前三々後三々』かなあなどゝ苦笑されるが、判つた様なわからぬやうなことである。

一宿兩餐の友といふ字が出來た。是は一晩とまつて二飯たべていつてもらふ人の事である。無理にでもたのんで宿つてもらふ位に喜んでおとめするやうとの事である。二日と滯在する人は改めて在園の目的をきく事になつたのです。新らしく來る人がだらぐ考へ込まぬ爲めにであるが、園を了解する親しい友はどしくきて下さい、共に奉仕をしますから。これからは『光』も毎月出るとの事、そんならおもしろい事を書き殘しておく事にしよう。

皆筆とる事が不性である。一人々々に眞劍な要求やら『光』のひらめきやらがありもせうが、中々謙遜して書かうとせぬ已むなく小僧がこんど丈こんなことを書いて責をふさぐこととなつた。

はりがみ

みづえ

私の親しい知人に或る若い、熱心な教育家があります。近頃上京して、市外の或る小學校に教鞭をとる事になりました。この小學校の生徒は、土地柄、勞働者の子弟が大部分を占めて居て、手にかへり腕白者ばかりですから、ちよつとした規律を守らせるのも中々容易な事ではないさうです。便所の戸にはいつも「明け放すべからず」と張紙がしてありますが何の役にも立ちません。戸はいつもバタンくと風にあふられて、臭氣はまともに此の先生の教室を襲ふのですから、夏向は殊に堪りません。若い先生は考へました。で、ある日『明け放すべからず』の札をはがして代りに次の樣な札を張りました。

「どうぞあとをおしめ下さい」

そして默つて生徒の樣子を見て居ました。この新しい張紙は便所の出はいり毎に小供達の目に入りました。意外にも小供は、すなほに戸を閉めて出て來ます。一週間の後には明け放しの不作法者は殆ど見られなくなりました。先生は又考へました。そして前の張紙の橫に更に赤インキで次のやうに書いて張りました。

『皆さん、もうこの札ははがしても宜いでせうね。』

これを見た小供達はわれもくと先生を取り圍んで叫びました。

『先生ッ、もうはがしても大丈夫です』

『先生ッ、もうあんな札なんか入りません』

× × × ×

院線の電車の中には「煙草は御遠慮下さい」と書かれてありますが、「其筋の御達しに依り堅く御斷り云々」とある街線電車と同じやうに禁煙はよく守られて居るやうです。

お役所などの書類を見ますと、祕、極祕、更に嚴祕などゝいふ印が捺してあるやうですが、「極」の字が出てくると唯の「祕」は何でもなくなり、「嚴」が現はれて來た爲に「極祕」までも唯事になつて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

しまつた樣な氣がします。かう物事がだん〳〵甲走つて來て、しまひには何うなるのでせう。此頃の思想問題に就いての論爭などを見ましてもお互にだん〳〵聲が荒くなるやうですが、いざといふ場合には、一體どんな聲を出す積りなんでせう。それよりもお互に氣を付けて一切の張紙を無くしてしまつたらどうでせう。

擧母の會合

伊藤正道記

五月廿六七の兩日にわたつて西田先生が御忙しい時間を割いて御出で下さつた事は誠にありがたい事と深く感謝して居ります。

その時の會合の正直な所感を宣光社へ御知らせする御約束をいたしましたが、私一人の所感よりもと思つて五六名の方に簡單な所感を披瀝して下さるやうに御願ひいたしました。

▼私の感想――私は倉田百三さんの歌はぬ人で西田先生の崇高な人格を知らして頂き宮崎安右衛門さんから西田先生の信仰と修業と托鉢とを聞かして頂きましてから是非一度御目に掛つて人格に觸れさして頂きたいと願つて居りましたが、本年の三月自分の寺に宮崎さんと同伴して來て一夜投宿して下さつた折も、生憎旅行して居りまして御目にかゝる事が出來なかつたので、宮崎さんに對してもすまぬすまぬとあやまると同時に自分の因緣の薄いことを歎いてゐました。其後擧母へ御出で下さつて托鉢して下さるとの話しを聞きましてその日の來るのを非常な喜びで待つて居ました。

五月廿六日午後一時三十三分竹村驛で乘車しますと擧母の伊藤さ

んと同車して居なさる西田先生に遇ひまして、何とも云へぬ喜びを感じました。伊藤樣の御宅で先生は奉仕生活に付て御話して下さいましたが、其のお話が皆生きてゐる話ばかりで西田先生の信仰の充實してゐるのが溢れ出てくる樣な心地がいたしました。私は禪宗の僧侶として自己の修養と云ふ事には多少心掛けて來ましたが、他に働きかける事に付ては十數年來全く疑問でありました。唯衣食に滿足して徒に日を費すことは何だかすまぬ心地だけはしても、いざ働かうとすれば其の道は全く暗く、その爲めに今日迄苦んで居りましたが、今度西田先生の御話によつて懺悔奉仕の生活を自分に體得すると同時に他にも働きかけて行くといふ事が最善の道であることに氣付かして頂き、暗い道に光明を得た心地が致しまして、我國に西田先生の在ることを喜びますると同時に、吾々が直接に御目にかゝりお話まで聞かして頂いた事は惠まれた人間かと欣喜に堪えぬ心地が致しました。奉仕の生活が世界の平和をきたす源であり永遠生であることを信じます。西田先生の健在とその敎化の日々進む事を世界人類の爲めに我國文化の發達の爲めに吾々同志の爲めに祈らずには居られません。（井村照源）

▼西田先生のお話をきいて――（一）自分は今迄全く虛僞の生活をしてゐた事を氣付きました。今何だかしら夢から醒める瞬間の樣な心持がしてなりません。

（二）自分は敎育者です。敎育てふことに多少の疑問を抱いてゐましたが先生の如き立場からの疑問を起し得なかつたのは矢張り自分が眞の生活に入らざりし爲めかと思はれ、過去半生の生活が無價値無意味であつた樣な氣がしてなりません。（伊藤利三郎）

▼西田先生に接して――私は幸にして西田天香師に接する事を得た

先生は長い時間色々な御話しをして下さつた。私はそれた別世界の樂園にでもゐるやうな和ぎの心持を以て御伺ひして居た。お話の進むに從つておさへられてゐた私のこの胸がだん〳〵輕くなるのを感じない譯には行かなかつた。御言葉の總てが慈であり愛であり眞であつた。ある時は御父さんと呼んでその膝へ飛び乘りたい様な氣がした。ある時はおゝ師よと叫んで平伏したい氣がした。あゝ先生は御歸りになつた。私はお供がしたい。（林五郎）

▼所感——いつも先生の御光りに浴させて頂くとき先生程御うらやましい御方はないと存じます。あのゆつたりとした音調で御話し下さることはどうしても佛様の御言葉とよりは思はれません。特にあの最後の托鉢先での御話はさういふ氣持を一層強く起させました。何だか自分にも或る強いものが頂けた様に思はれ、私達の行くべき道もはつきりして來た様で非常な喜びに滿たされてゐます。（矢頭琴治）

▼終りに私も少し書かして頂きます。私は今私自身の心を纏めて考へてみる事が困難です。私は只思ひます儘に感銘の一端を書かして頂きます。

あの日私は救ひ主を迎へる様な深い尊敬と慈しみ深い母に會ふ様な清い親しみとを以て先生を御迎へいたしました。その夜の御話はすべて先生が十字架を負つて身を民衆の前に投げ出された懺悔奉仕の尊い體驗から湧いた清冽な泉の様な信仰の御話でした。十字街頭に托鉢を行ぜられ徹底した行乞道から刈り獲られた滋味の豊かな生き〳〵した御法話でありました。翌朝最後の托鉢の家で聞かして頂いた御話は、生死の問題に行き詰つてゐた私には殊更端的なヒントを與へました。私は先生の御話と云ふよりも寧ろ先生を通して示現された御佛の御垂示として御受けしたい氣持になつてゐました。後から聞きますとさういふ感銘を受けたのは私一人ではなかつたさうです。芝崎君も玄關から驅け込んで來て其處に待つて居られた人達に、今迄に聞いた事のない いい話を聞かして頂いたと云はれたさうです。それを聞いて私は矢張り私一人ではなかつたのかと思ひました。ほんとうにいい言葉には人々を動かさねば止まぬ強い力があります。

殊に二十餘町を離れてゐる病弟を見舞つて下さつて、あの雨中の石くれの多い道を泥濘を冒して停車場まで尻端折りで御歸りなさる先生の御姿は、紛ふべくもなく十字架を背負はれた愛の權化として私の胸に克明に印象されました。私はしつかりと足早に歩まれる丈の高い先生に縋る様に随ひながら、鈍惡な自分には稀れにしか起らない敬虔な心持と純な感謝の念との高潮に身の引き締るのを覺へました。私の心は先生の御姿に跪づいて拜みたい氣持で滿ちてゐました。

先生を停車場へ御送りして歸つてから私は靜かに考へました。偉大な先生から受ける弱小な私の感じは所詮驚嘆と崇敬以上に出る事は出來ません。私の内にあつては善良は心の隅に縮こまつて幽かに呼吸を續けてゐるに過ぎません。邪惡は恰も自分の王國ででもあるかの様に、暴君の權威を振つてゐます。善良が絶へず死に身になつて眞理を呼び迎へるに拘はらず邪惡はそれを強い底力を以て拒みます。かうして私は一日〳〵を恥と造罪とに汚して來ました。それにも拘はらず「善良」は聖なる信仰と感謝と懺悔との生活を味得したいと切に祈念してゐました。それがせめてもの私の眞の生命でした。

先生に接して信仰と生活とが別物でなく全く渾一された信仰即生活——生活即祈りの狀態を見出した時私はどんなに驚喜しどんなに

喜ばしく思つたでせう。不二の光明によりて新生し許されて生きると云ふ祈願から出發し、この祈願の内に生きられる先生としては其れは或は當然の歸結でありませう。又此の祈願を他にして先生の信仰も生活も到底不可能でありませう。私は此の信行不二の徹底境を知る事によつて明かに自分がこの別世界の觀光客として赤毛布にくるまつてゐるのを見出した時にも憧憬と羞恥、喜悦と慚愧の交錯の内に一縷の希望を認める事を得ました。頭で合點くばかりでなく身を以てこの境地を會得するまでには越え難く見える個性の巨きな溝のあるのを知りながらも、跳躍の力さへ養へばとの希望の綱を手繰り寄せる事が出來ました。

信ぜんとして信じ得ざる苦しみを抱き暗夜に燈火を失つて曠野を彷徨する旅人の樣な焦燥と寂寥とに惱み悶へてゐた私に、強い頭光を與へてその進むべき道を明示して下さつたのは、この更生の祈願と諸宗の歸一の大願に參ずる先生の大信仰でした。

更に先生の懺悔奉仕の行乞道に至つては今迄私の考へてゐた樣な狹い危なつかしい嶮路でなく、又特殊の人のみに强ひられる特殊の徑でもなく、實は曠野を貫く最も安全な坦々たる本街道であることを知りました。今迄の私の道こそ却つて雜草の生ひ茂る凹凸の劇しい間道であつた事に氣付きました。今私は疑ふ事の出來ない確かさを以て先生の生き方が直ちに私の生き方でなければならぬ事を信じます。

もう私は進みさへすればいいのです、思ひ切つて進んでいいのです。だが私は其處で內外の大きな障碍にぶつかります。それは肉親に對する愛着――(かなり不純な愛着のある事を承知しつつも)――と自分の內に巣喰ふ『邪惡』の脅威とです。私は之等の障碍に必す打克ち得ると云ふ自信に勇躍する事があります。殊に先生に接する時それは容易に飛び越える事の出來る小溝の樣に思ひます。けれども時に障碍への敗北の豫感――寧ろ日々の生活がこの自信を裏切つてゐます。然し私は現在の有樣を其の儘私に定められた運命として素直に受け容れようとは思ひません。もつと愛を高め慾望を淨化してほんとうの運命に參入しなければならぬと思念してゐます。それは運命への反逆でなく運命の謳歌であり運命への忠實であると思ひます。この困難な工事の後にこそほんとうに自分に定められた運命の殿堂の礎の上に立つ事が出來ると思ひます。とまれ現在の私にとつて先生のある事は唯一の强い力です。怒る時悲しい時淋しい時先生を思ふ事によつて私はどれほど慰められ力を感ずるか知れません。罪を思ふ時恥を知る時私の心は痛みに堪へ兼ねます。然し先生を思ふ事によつて痛みの輕くなるのを感じます。それは何故だか知りませんが事實です。私はかう云ふ力が行く〳〵は佛樣からぢかに傳へられるであらうと云ふ豫感のありがたさに浸る事があります。この頃私の家では仕事の押しつけつこなしに仕事が極く圓滑に運んで行きます。醫院の務めは勿論表や庭の掃除でも便所や勝手の仕事でもみんなが進んでします。今迄嫌であつた仕事を「私がやります、いいえ私にやらせて下さい」と、同じ仕事の奪ひ合ひが時々始まります。私に家人達の內に燃えようとしてゐるものが何であるかを知る事が出來ます。私は淚ぐましい氣持ちで水を汲む音や雜巾をかける音や箒の音を聞く事があります。先生によつて私の家に播種され耕された感謝、懺悔奉仕、拜み合ひ、謝り合ひ、讓り合ひは確かに幼い双葉の芽を吹き出したと信じます。

先生の御健在を祈つて筆を擱きます。(以上)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

返照錄

○中里彌之助（介山）兄　　拜啓、本日そゞろ心にて淺草邊を逍遙し、歸宅致候處「光」の第二號を發見仕り候。特に「不定期刊行」の文字にはいとゞ共鳴を禁じ得ざるもの之れ有り候。「出版費一切を供養の淨財に仰ぎ」といふ事と「原稿も惠まるゝに任せ」といふことが、御誌に於て、ふさはしきものであるやうに、人間の一生が此不定期刊行の心持で暮らし得るものならば如何に廣大無碍にて候らむ。

おこがましながら、小生も自家の出版は自分の手でやり度心得、僅少の餘材を得る毎に、こつ〳〵と、從來も今後も出版物に投ずる方針を取り居り候。形式に於ては、知らず〳〵不定期刊行の手段を取り居り候へ共、內容に於ては、これ固陋なるエゴーの發露のみにして、奉仕托鉢の大賊に御座候。いづれの時までか一槌打碎の機を待ち候はん。

破闇照明の光、かくやくとして迷界に輝かんことを望み奉り候。不備。（宣光社同人宛）

○伊藤エイ姉（島根）　　南無阿彌陀佛、その後はとんと打たえ申わけなき御ぶさたに打過ぎ面目御座いません。

先生御夫妻には其後如何わたらせ給ふ御事にや御案じ申上ます。その後わたくしに於ては上京すべくかねての一大希望に向つて突進せんと着々その準備にとりかゝり日夜盡力致しました處着手すればする程益々障り百出の體にて第一私事上種々雜多の故障いでましたれど、燃ゆる如き私の決心にはあまり苦にもならず、突進の覺悟でありましたが今度は公務上又々さしつかへを生じて心痛致しました。何分三年五年奉職した人と事ちがひ最う恩給にも手のとゞく私たちの事とて官も餘程審議に審議をかされその事情ももれなく尋ねよほど重大な事情と見れば許されんのです。職務上に失態でもない限り大切におとりあつかひ下さるのです。休職はさせぬと申すのです。退職になると尙困難だし學校でも今貰職に退いてもらつては困るちやないか跡白浪をきめこんでもらつては困るといつてなか〳〵情實からまつて引くにひかれず出るに出られんのです。マア今更に吉田兼行のいひけん徒然草の一節の宅に火がついた時の氣持で身を捨てて道を求むるの、實際に於て難關たる事におどろかざるを得ません。京都で實驗させて頂いた御念佛即ち仕事！念佛と生命との合致！念佛と日々の行事との合致に自覺せる行者としての念佛！先生私はあまり困つた揚句とう〳〵右の意義ある御念佛に目覺むる身となつて現今は寢てもさめても御念佛にそだてらるゝ事淨化を享くる事にのみこれつとめる事になりました。そして御念佛のためになら世間的の何物をも犧牲にしてもかまはんと思はるゝ位な興味がのつてまゐつてゐるのですよ。先頃も一週間殆んど飮食を忘れて別時念佛をはげんで見ました。アア何と申しやうなき淸き優しきたのしき御念佛のこゑでせう。たしかに全身より立のぼる靈氣にうたれる勿體なさ、とてももうやめられぬ事になりました。奉職しつゝしかも夜らおそく迄朝は四時から七時頃が念佛日課です。

環境と心身完く一致の三昧に入り然かも自からにして共氣分の生命とも稱すべき或微妙の氣分をもつて高潮せられたる或物に合致せる自己眞我の存在を意識する時吾人は明かに大覺の味を知る事が出來るではありますまいか！只徒らに環境と一致するのみにては已れ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

た滅するに過ぎず、未だ人間味を超越せるものではありますまい！

環境と合致して其間に漲る氣分の主たり生命たるものと合致し、強く其生命に生き其生命をいよ〳〵高潮する努力の生活をこそ眞我の生活と知る時即ち如來の光明に攝取せられたるものと稱すべきでせう。

しかも如何なる場合にもこの環境と合して其間に充滿せる氣分を靈化しつゝ直に清淨慈悲歡喜の氣分と變じ、かつ全體と合致して其間に表現せる一切の事象を明かに明かに觀察し、而も動ぜずして確信的念佛行の裡に靈化すべきことと思ひます。

今更に御恩の程も一層に思ひ出されてなつかしく、おちつかれた先生の御態度も目前に浮んできます。

先生御念佛を申すべく今しばらく御許し下さいませ。

そして益々披導下さらん事を伏して願ひたてまつります御奥さまへよろしくかしこ　（天香氏宛）

○岡田次郎兄（大坂、吹田）　拜啓昨日は突然推參、時の經つをも忘れて長坐致し定めて御迷惑の御事と恐縮に奉存候。物心つきて以來絶えず求め〳〵てありし或物を今眼前に引合はされし心地致し宛ら保羅の『されどその時には面を合せて相見ん』といひし境地を想察致され深くも限りなき喜悦を味ひ申し候。父を尋ねて巡禮に出でし人のそのまごゝろの神明に感孚して引合さるゝもかくやと思ひ合はされ候。維新の當時憂國の志士が彼方此處に出沒致せし當時も嘸や又かくてありしかとも思ひ浮べられ候。但しその長坐の間果して何を申上げ候やら、何を承り候やら、殆どその痕を止めず、惜しきことのやうにも覺え候へど、入我々入の境地はそこに妙味の存することとも覺え候。さはいへ、わたくしの言行には定めし醜かりしことのかず〳〵ありしならんとそれのみお耻かしく候。向後機緣のその度ごとに折角御指導奉仰度候。別冊「陽明主義」と「農會報」と各一冊舊作を錄し候もの謹で御高覽を願ひ候。今日之を繙讀致し候に、稚氣滿々、ます〳〵以てお耻かしく候。しかしその耻かしさを知らしめられし光明の難有さ、何を以て之に對へまつり申すべき。

借覽の鑛業會社に關するもの先づ以て御返送申上候。

論語を誦すれば、自から髣髴として孔夫子の風丰眼前に隱見致すを覺え候。今この御趣意書を通覽し、更に面あたり貴下の御風格に接せし昨日を思ひ較べて、風趣津々として盡きざるを覺え候。その洗練されたる表現は容易に他の追隨を許さゞるものあるを知り候。多年御研鑽のほど思ひの外なるものあるべく、仰慕の至りに御座候。

只冒頭の御發言『余が生れは近江の商賈なり』の御一句。を誦せし第一印象は、その色彩の眼前に浮び出づるを禁じ得ず候。中江藤樹、近江商人それからそれへと聯想の起り候は見るものの僻目歟、一度一切を捨てゝ現代經濟組織の支配を受けざる自由の天地に歸り給ひし西田天香氏は、更に新なる商道の士として、その手腕を斯界に揮はんとし給ふか。『やつて見せなければ世間が――』。禪をぬけて木魚を叩ける人あり、英雄頭を回らせば神仙、神仙頭を回らせば英雄といふか。細流の渚にむせぶは思ひの寄せ難きを嘆く聲か。世間鬪爭の叫びのはげしきを聞きては、默して止むべきにあらずとし給ふか。心ある者固に何等かの發現なきを得ざるべきも、孔子が稼圃の事我老農老圃に及ばずと戒めし時の心は何と見申すべきにや。學べば祿その中に在り、道心に衣食あるはいふを俟たず、かの野の百合の花を見ず

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

や。寧ろ職と衣食とを思はざるにあらずや。客室に坐して三條橋上を凝視す、雨水は人傘をかざし、霽るれば行人直ちにその數を増す、「四條五條の橋の上〳〵老幼男女貴賤都鄙……」、此間別に作爲を要するものありや將た無しや。顏淵は陋巷を念とせざりき、衣食はその念頭になかりき。山の下に藏るゝ金屬は誰の手に依てゞも掘出せる。掘るは心の玉といふか、特に田乃澤鑛業會社を起して……と申さるゝその一點色を着けられるゝ首の回らされ方に小生は御示教を仰ぎたきもの有之やを覺え候。この問何の言を以て現はし申すべき歟。今其以上を陳ぶる能はず、謹で他日の御高教を仰ぐことゝ致度候。(天香氏宛)

●●●●●
○山口等澍兄(東京)

私は藪の中をむちやくちやに歩いてをりました。足の皮がむけて一面に血が流れてをります。わたくしは自分を忘れてをりました。眼が向うばかりをむいてをりました。

西田樣、中桐樣。

わたくしはこんなに嬉しいことはございません。わたくしは自分が何處に位置してゐたかに氣がつきました。荊棘にからまり、かすんだ深い森の中へ細い道が、道元樣の路が向うへ通つてをる樣に見えまする。わたくしは坐りはじめました。『正法眼藏』を讀みはじめました。『わたしならば坐ります。托鉢をいたします』と仰つたあの御言葉、『その福田にめぐまれなさい。登る道はちがつても頂きに遍ねきわたる法の光りは一つだと思ひます』と私に仰つて下さつたこの御言葉は私にはどんなにつよく心の底まで泌みこみましたでせう。ありがたうございました。考へてみますれば私は何といふめぐまれた福田になりますことでせう。ほんたうにありがたい因緣でございます。ああ、わたしに力がでてまゐりました。歩ける心持になつて參りました。今かうして正法眼藏を讀んでをりますれば心のうちにひしひしとこたへてゆくものをおぼえます。幼い頃によんだ文句がしみじみと解る樣な氣がいたします。なまじつか中學教育をうけまして唯物主義にぶちのめされ、幼い頃の父や母から養はれた尊い心を失つてをりました。けれ共もはやその心は法の光の前には直にゆきえず、惱む心は哲學にたどりついて辛うじて救はれてはをりましたものの、常に苦しく、暗く、ほんたうにこまつてをりました。

正法眼藏に『イハンヤマタ無上菩提ノタメニ菩提心ヲオコシ出家授戒セン、ソノ功德無量ナルベシ、人々ニアラザレバコノ功德ヲ成就スルコトマレナリ』と、また『イマワレラ宿善根力ニヒカレテ最勝ノ身ヲエタリ歡喜隨喜シテ出家授戒スベキモノナリ、最勝ノ善身ヲイタヅラニシテ露命ヲ無常ノ風ニマカスルコトナカレ』と、かくてわたくしの當體をみますれば何といふめぐまれたものであつたのでせう。わたくしはもつと早く氣がつくべきでございました。わたしは常にどうしたらよいのだ、どうしたらよいのだ、この苦しい心は、と常に思つてをりました。あああここからぬけでて平和と歡びの光りの國に入ることができたらば! それが爲には何物をもささげように。さう思つてをりました。そして自分の眼は東西南北上下のみばかりみてゐて自分を忘れてをりました。自分はこんな福田にめぐまれてゐた、何を苦んで哲學の門前にうろつくのだ。ああその路は、遠き昔に善き人のお通りなされた足跡、その跡には雜草が生ひ茂つてどんなにのびてゐようとも處々についた路しるべのこの『正法眼藏』をはじめとしたこれらの御全著書、わたしはこれをしるべとしてゆかう。そして坐らう。托鉢もしてみよう。わたしはこれをゆくべき因緣にめぐ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

まれてゐたのだつた。

ああ、ありがたうございました。わたくしはそれに氣がつきました。御手をわづらはした小さき手術、けれどもわたしの心の中にはひかりがともされた樣に思はれます。たとへ路は暗からうと佛樣のめぐみによつて一所懸命に歩いていつてみたい。光りの國へ入りたい。

思へばこれを進むのは私のめぐまれた福田でございました。わたしは「頭燃を救ふが如くに」一所懸命になりませう。「歌はぬ人」をよみましてから「愛と認識との出發」をよみましてから長い間お目にかかりたい、御話しが伺ひたいと思つてをりましたのに、突然思ひがけもなく中桐樣の處でお目にかかることが出來ましたのは何といふありがたいことでしたでせう。この逕(こみち)を進んでみたいと思ひます。折々は行き暮れて、路しるべの光もうすく四辻に迷ふその折々にはまた、どうぞお話しをうけたまはらして下さいませ。大學の方はほんとに第二義三義にいたしましてひたすらこの路に力をそそいでみようと思つてをります。ほんたうにわたしはうれしいのでございます。何といつて御禮を申していいか分りません。

然しこれからでございます。これからいのちがけの（まもらせ給へ）一所懸命の巡禮が始まるのだ。これから生きかへるのだ。ああすべてまもらせ給へ。（西田、中桐兩氏宛）

●●●●●

○松下吉衛兄（栃木）　懷爐灰の社長で可なり宣光社ぶりを發揮して居る所を此度わ町會議員に群を拔いた最高點で當選いたしました。近く新聞も出すつもりです。數年の托鉢生活の實驗わ「いのりの形」について私を左え左えと追つて行きつゝあります。「報恩懺悔の奉仕」といふ點についてわ、今に些の疑念もありませんが、世の中にはいり込めば込む程、コーランと共に劍を携うるの要あるを痛感させられます。これわ其人の素質にも依る問題でしようが、私ごとき下根者にわどうでもこの必要があるように信ぜられるのです。もうとても微温的なことでわダメのようです。「神さま」わ「いのり」もおきゝでしよう。併し「人間」わどうして中々耳を傾けません。篤信家わ「石」にも物言わしむることが出來ましようが、信仰薄き私わ「人間」に向つても時に劍を持つて立つの餘儀なきことあるを悲しみながらも告白せねばならなくなつて來て居ます。（中桐氏宛）

●●●●●

○鹿俣ふみ姉（大阪）　先生昨日はほんとに有難うございました。昨日させていたゞけようとは豫期致しませんでした御手傳をさせていたゞきましてどんなに嬉しうございましたでせう。歸ります道々で何とも云はれぬ平和なよろこびを感じました御教への數々身にしみて居ります。ことに朝聖書について御話し下さいました時の「寂滅美」のこと、伺ひたいぼんやりした望が、はつきりしない先に解決がついたことを感じました。昨日一日御仕事させていたゞいて居りますうちに確に聖書はそのまゝ實現出來る筈のものであるを、身に一文なくとも神によつて養はれる境地のあることを感じました。ちようど伺ひます前日あたり自分の生活する費用なんかについて考へて日記の端に書きつけましたことなどと引くらべて見ますと何もなしにたゞ神佛によつて養はれることが、いかに尊い自由なものかとまざ〳〵とわかります。私は考へたのでございました、自分の月々もらふ俸給は府費から出てゐる、そしてそれは府の人々から子供が女學校に出ようと出まいと經濟が苦しからうと苦くあるまいと、一切

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

かまはずに割當てられて集められたものである、血を絞るやうなお金も正しくない手段で得られたお金もあると思ひました、そして自分のやうな汚れ多い者は汚れたお金でやしなはれるのがむしろ當然でその方が氣安いといへば氣安いですけれど、人のたふとい勞力の汗をもつて自分が働いて得たかのやうにしてやしなはれてゐることは何ともいへぬ恥づべき恐ろしい勿體ないことだと思ひました。赦され許されて生きる時はさういふもので養はれることも許されませう。然し全く神の子、佛の子とならぬうちはほんとに心から畏れなくてはならない氣が致します。さうかといつてこのまゝの生活ではさうした俸給を以てやつぱり他の人と同じやうに暮してしまひます。何時か必ずこの狀態をたゞさなければならない氣がいたします。私は神に許されない計りでなくまた人に許されないところがあると思ひます。神にゆるされる事は直に人にもゆされる事でございませう。私の決心のついた時には、今の私にはそれが何時かわかりませんけれども、どうぞよろしく御願ひいたします。今まだ私は引ぱられてゐるところがあります。それがつまらないものであると思ひながらも、どうしてかなか〳〵切り放すことが出來かねて居ります。弱いのでございます。然し一日一日と恐ろしい力で私は一燈園の生活の方へ引つけられます。

基督教の信仰生活に初めて入る時は容易に入れました。それは何をも棄てる事を要求されなかつたせいでございませう。それですから割合に罪のなやみも實際的には感じませんでした。許していたゞかねばならぬ罪は持つてゐるとは思つて居りましたけれど。

今は前とはちがつて自分のよわさふがひなさをつく〴〵と感じます。「棄恩入無爲」始終心の中にひらめきます。私は愛する親に妹にも友にも與ふべき何物も持つて居りません。持つてゐるとすれば汚ちゆくもの許りでございます。どうせ一度は別れればならぬ、いつ別れるのも同じである、今別れると或は因緣によつて彼等も、と思ひながらこゝまで思ひながら、また最後の一打を下すことが出來ないで居ります。我執が時々頭をあげて知識などに私を引ずつてゆきます。我執と戰はなければなりませんと思ひながら、とかく引ずられるにまかせ勝ちであつたりいたします。でもそれよりも大きい力が私を引きますから、大かたはその方へ引かれて參ることになりませう。さもなくば兩方引ぱりあひになつてうごけなくて居ることになるかとも感じる時があります。自分ながら時々は自分がわからなくなります。つまり煮え切らないといふわけでございませう。

昨日の一日、私にとつてはほんとに有難い日でございました。此次に御伺ひいたします時は初から支度して參りますからどこかに御手傳に御出し下さいませ。どこかほんとにひくくなつて働けるところで一日を過させていたゞきたうございます。夏休みには(もし許されますならば)自宅で托鉢のつもりで家事向の事になれて來ようと思つて居ります。長く學校生活をいたしましたので一向にお臺所の事にはうとくなりかけて居りますから。

今日はいつもと違つた氣持で生徒に接して居ります。

先生の御旅行の上に祝福あらん事を祈ります御機嫌よろしくいらつしやいませ。末筆ながら勝淳様にも杉本様にもよろしく御傳へ下さいませかしこ。(西田氏宛)

●●●●●

○西田透石兄(備中大谷)　尊きお父上様。お久しう御無沙汰に暮して居まして、誠に相濟みませぬ。惡しからずお赦し下さいませ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

度々お便りを頂きながらお返事をも差出さず、定めしお寂しうお思ひのことと存じます。滿足にお便りも出來ない自分の心弱さを悲しう思ひます。呉れ〴〵もお赦しを願上げます。

お蔭様で、私も日々御奉仕に餘念無く暮させて頂いて居ますからお喜び下さいまし。可也に純粹な勞働に慣れては居ますもの丶元來が病氣上りの弱くした軀(弱い軀とは書けませぬ)故少々の無理が疲れと成つて折角の尊い奉仕的生活が怠けます。どうか強く成りたい。どうか緊張した生活を續けたいと心では絶えず祈り勵みながら無慘にも疲れます。しかし私は殪れても又起きる術を知つて居ます。希望を失ひませぬ。如何に病苦の甚しきに會ても、神様にだけは從順でありたいと祈つて居ります。唯今の私には、(これから先、より以上に強いと思ひますが)神様に賴つて居る力強さがしみ〴〵と實感し、感謝させられます。如何に惱ましい現實の試練に會ても、私は神様だけは信じ賴りたいと思ひます。實在――神様の深い愛のうちに生きる喜びを、しみ〴〵感じます。無神論者の若き青年を私の周圍に見受け、彼等が青春てふ夢の享樂に生きん爲め夜のカフエーか、三味の音する色街に走るまぼろしの舞踏を實見し神様の實在を罵らうとする不遜な姿を見出して、私は戰慄きます。何たる惱ましい現實であらう。私はそれ等の青年の不遜な態度を責めるよりも私だけは強くありたいと思ひます。私だけは孤立し、自分だけの修行を怠りたくないと思ひます。私も一個の人間であり、可也に現實的な浮薄に成り安い人間の一人であります。しかし私は、それ等の現實を通して、遙か彼方の光明の世界を微かながらも、望み得た救はれた人間なるを神様に感謝致します。惡と善の區別が、この儘の生活から判斷が就き、出來るだけ現實の迷惑からさけさせて下さる自分を有難いと思ひます。將來の自分は、如何に向上し如何に退化するか解りませぬ。しかし、唯今の私はこの儘の現實を背景にした自分の生活を祝福したいと思ひます。有難いと思ひます。醉ひ冷めの水にも似た冷たい盃を受けなければならぬ、享樂後の人の魂を思ふ時、どうして、浮薄なデカダンな生活が續けられませうか。私は今日まで人知れずこの現實對奉仕的生活の問題に惱んで來ました。さうして、私はもつと深く現實を見る爲めに、色々な性格の異つた友達と交りました。さうして私は捨てられました。私は孤獨を味ひました。しかし私は友達に對して濟まないと思ひますが、しかし、私の眞實の心の要求を入れる爲めには、一度は友達から捨てられることを決心しました。さうして深くなる爲めに、脅かされようとする自分の心を反省し、自分で解決の出來ない問題は、神様にお任せし、丹田に力を入れては、落着きたいと念じました。捨てられた友達からの便りの無いことは、私にとつて隨分と其の寂しさは強くあります。しかし私は孤獨てふこの姿から旅立つて、友達に報ゆる愛の奉仕を何時かは實現出來る時を信じて寂しい自分を慰めて居ます。小堀君は氣の毒な人です。私は忘れませぬ。この不幸な友の爲めに、祈つて居ます。唯今の私は手紙のやり取りは止めて居ます。私の心にある數多の友達にも同じ様に音信を止めて居ます。出來るなら便り位とは思ひますが、しかし、自分の身や心を充分に強くした上で、便りをせなければ、可也に、思想上誘惑に會ふことがあるので、又不純な病的な分子が宿されるので、これを案じて、出來るだけ思想上の手紙は書かないことにして居ます。

孤獨な自分と申しますもの丶唯、心の上で孤獨で、外的には可也に社交的に成つて居ます。色々と現實の相にめぐり會つて、色々な

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

人達から、可也に良い感化を受けました。この新しい正月からは、蘇み返つた樣な新生活を自分の心の上に建設して、隨分と陽氣に日を送つて居ます。今年から數へて五年間を私は專ら健康上に氣を配りたいと思ひます。私の最善と思つた色々な强健法を日々行つて行きたいと思ひ、昨年の五月から一日も缺さずに、朝晩の冷水摩擦と深呼吸をやつて居ます。川合式强健法も岡田式靜座法も毎日ひまを盜んでは、實行して居ます。何だか此頃では、それ等の方法を缺いては氣持が惡いので、段々と効力を見出して喜んで居ます。

冷水摩擦は、身心の爽快なるは勿論風邪を引かぬ最善な方法にも成り、大に宣傳したいものと思ひます。養生はどの方法にも積極的の實行が必要で、追々其の効果を樂しみに實行したいと決心しました。元來が食物の大食が習慣に成つて居るので、食物の攝生が出來なくて、何時も胃腸をこはして困つて居ます。腹は八分目と申します。中々お美味い時には、攝生出來なくて、知らず知らず傷けます。どうか胃腸を强くしたいと心掛けて、一心に攝生して居ます。

今の私は、お父さまの言はれる樣に、病氣が一つのお蔭でもあり。又一方からは、早く健康體に立歸りたいと願ふ場合には、この病身な自分が悲しいと思はれます。病氣は、やつぱり不幸だ。折角の祈りがにぶり、心行くまでの御奉仕が出來ないのが悲しいです。どうか早く健康體に成つて、一段の向上を强めたいと思つて居ます。私の軀のことに就いて御心配下さらぬ樣お願申します。しかし病氣は、眞劍にする。落着いて、自分の死を思ふ。さうして、惰けられない。大死一番と云ふ言葉を此頃考へる樣に成りました。生命掛けに奉仕をしたい心が段々强く成りだしました。私は、お父さまのお德を慕うて、この生の終りまで、一緒に他人の幸福の爲め、御奉仕がしたいと、眞劍に考へる樣に成りました。私は、すべてお蔭だと思ひます。

今の病身な自分を、より强き健康體に立歸ることを、一番の創作として、私は、生きて行きたいと心を決めました。私は前進する。私は恐れずに祈つて生きます。隨分と永いお便りを書いて、お多忙なお父さまを煩して濟みませぬ。どうか、終りまで讀んで下さいまし。私は技巧を氣にしませぬ。私の眞劍な生活姿勢です。

此の間送つて下さつた母さまからのお荷物は、未だ着きませぬ。嚴重に調べてもらつて居ます。最初は、紛失したのかと、氣に成りましたが、此頃は、締めて居ます。送つて頂かなかつたと思へば、諦められ、マントや着物が無くとも死にませぬ。私は不自由ではありませぬ。寒中單衣でふるへて居る乞食の子を思へば、私達は、どれ丈け幸福だか知れませぬ。其の意味に於て私は紛失したことをお蔭だと思つて居ます。しかし、根本まで調査はさせます。日本及日本人の一月號を若しお手許に御座いましたらお貸し下さいませ。誠に濟みませぬが解放の第二號をも送つて頂けませぬか。どうぞお願申します。

先づは、右永いお無沙汰をお詫びを兼れ、私の心の一部分を御知らせ申します。お慕はしい杉本のお母上樣に特に宜しくお傳へ願上げます。何れ又お便をさせて頂きます。御身の上大切に遊ばし下されませ。(天香氏宛)

●●●●●

□西川光二郎兄(自働道話社主)　拜啓先日京都にて御目にかゝり候節の御話「自働道話」五月號に掲載仕候處、莊田平五郎翁(同氏は三菱の長崎造船所社長として永年勤續三菱系の元老にて候が目下退隱東京に在住)より左の如く申參り候。「拜啓五月一日發行の貴紙自働道話に依り懺悔報恩奉仕者の一團ある事を承知仕候就ては同團體の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

組織に付詳細に知得る途御示下され候はゝ難有存候尤自身共筋の御方を敲き教を請ふ事當然に候へ共病夫奔走意の如くならず大要を知り得る方法有之候はゝ大幸に御座候云々」我々は大兄より直接同氏へ手紙を御出し被下か在京の同人一人へ大兄より莊田氏訪問の事に御運び被下度たのみ申候、莊田氏は數年前より「自働道話」を愛讀して居られ候が小生はまだ面會せず候、翁は財界に勢力あり勞働問題に熱心に候事故了解を得候事は自他共利益少からずと存候云々。(西田氏宛)

○武田みつ姉(京都)　苦しい心を抱いて死に迫はれながら死ぬる事も成し得ない身を先生のお前に伏しましたる日より今日で一週の日を經ました、私は毎日〳〵私の家に居ると死と云ふ事ばかり考へて居りました。

何うして死ればいゝ事だの、何の樣にすれば死れる事だのそんな事ばかり考へて居りました、其内お慈悲深い先生のお言葉に甘へて毎朝佛樣におまゐりをさして頂いて有難いお經を誦して居ります内にも矢張り何うしても私の家に歸る事は地獄の底にでも引かれてゆく樣に悲しくつらいものでした、今朝も悲しい心を抱いて家を出ました、合掌をして居ります間にもそれでも少しづゝ雜念がうすらいでゆきますのが嬉しうございました、それから歸りきはに靜におさとし被下いましたるお言葉を春雨の降る中をじつと考へ考へして行きました、(今日の事は今日考へよ、それをお前は不安に思ふか)とのお言葉でございました、(ソロモンの榮華の極の時だにも其よそほひこの花の一に及ざりき、嗚呼信仰うすき者よ何を飲み何を衣むと思ひわづらふ勿れ、明日は明日の事を思ひわずらへ)

先生のお言葉と少しも違はぬ事を思へば、何故か心の明くなるのを覺えました、そうして私は今一燈園から私の家に仕事に行くのだと思へば何時知らず心の凉しくなつて居るのに心付きました、かくして地獄の家へいさましく歸つて行きましたのでございます、あゝ先生のおかげを以ちまして今日の一日を快く面白く過せました事を先生や佛樣に御禮を申上ればなりません.今夜はきつと快よく眠れる事だと存じます、一夜を過しましたら又おやさしい先生の膝下に歸つて行けます事を何よりの樂しみにして居ります、おろかなる私――淋しい私――あはれなる罪の子の私を何時〳〵迄もお捨なく何うぞ先生っはれみ被下いましてお導き被下います事を涙とともにお願ひ申上ます。(天香氏宛)

○近藤博兄(三河合掌園)　南無合掌　五日十二時御書面合掌拜讀さして戴きました御便りを戴く度に聖悦が湧然と溢れます地に伏して謝します。

モートルは凄じく唸り、ベルトは目紛るしく廻轉し、八本の杵は威勢よく上下する精米所で、シャツにズボンに破れ足袋、粃だらけになつて働いて居る所へ妹が持て來てくれたのです、開封致さない前に合掌し名號は迸り出でたのです實に忝けない有難いことです。

毎朝八時頃に合掌園を出でゝ此道場に來るのです。御奉公の欣びに心を躍らしつゝ、時には連日の勞役で疲勞しきつて、倦怠の氣が生じて居ても杵の音を聞くと、モウ何も考へて居られません、裏裸體になつて勞役服と着替へ米、炭俵を擔ぎ、粃篩ひを始めます。汗の流れる迄働くと、胸に一塵もなく脈管に温い血がコト〳〵と音して鳴り出します。全身から爽快さが泡立ちこぼれます。此時こそ純眞な祈り

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

節無しの讃美歌、正信偈、御文章が御空の父に向つて捧げられます。教壇に立つて聖い小兒の魂を傷つけてゐた時代より遙に幸福と言ふ感に醉はされます。先生聞いて下さい。

毎日私の繰返へさるゝ嬉しさを！

それは飯時には必ずアノ頑固な父が呼びに來てくれるのです、風呂にすら父は私を先に入れようとするのです、父の愛に合掌せずには居られません。兄が病氣して居る爲めに父は從來一倍働いて居たのですが愚かな私は三年間も回顧すれば慚愧に堪へない生活を得意にして居たのです、影を追ひ泡を握らんとして居たのです、妙なる光を知らずに居たのです。

私が働くので父は煙草休みが多くなつたと笑話して居るのです。碌々安息も出來なかつたのでせう、母の歡喜は無量です、御空を仰ぎ胸を叩いて此の喜びを感謝して居ます。

報酬の期待なく働ける程幸福な者がありませうか。俸給の不服許り言つて居る職員室から、黒い玄米が白銀に光るを喜びつゝ働くのです、調和した生活です、勝利の生活でせう。無要求の生活です。

溢れ粒を拾ふ雀が夕べには狹い庭に集つて來るのです。此時私はいつも一握の米粒を彼等に布施さして貰ひ其度にフランシスの小鳥の説教を想ひ出します。

今日も道場で法滅盡經の男子懈慢不用法語――無有信心と釋尊の朗々たる聖聲に觸れその豫言に胸をえぐられました。流轉の道を永刧に運ばれて行くのに因果も業報も信ぜない末法の世に私の如きを報恩生活に導いて下さつた先生に兩家一同感謝しい〳〵暮して居ます。なくてはならぬ只一つを與へて頂いた私は感激に滿ち〳〵て働いて涙ぐましいまで生の法悦と歡喜を高誦するのです。匹夫となり傭夫となりて耕耘に從事せられた沙彌教信を思ふと、ぢつとしては居られないので糠だらけのまゝ表通りの水撒き掃除をやるのです。實行宗の洗禮は有難いものですれ――只々感謝々々。

北嶺から、異端と邪義と嘲笑され吉水の禪室に走られた親鸞聖人は、宗教を學理として取扱ふ高慢な牧師と合はずして教會を近く脱せんとして居る私には憧憬止まないものです。

大原立禪寺に於ける法然上人の獅子吼を思ふ時には私の靈は火皿に燃えに燃えます、理想を實現化せんとする靈は奔騰しきつて居ます、今年一杯働けば立派な勞働者となれませう、細君もルツ子と五十羽の雛の世話に追はれ〳〵して居ます、「道」の爲めならばどんな事も忍ぶと申して居ます。

「懺悔の生活」を御出版の由、實にうれしく存じます、先生の最も熱誠なる下僕は前途に幸あれと祈念します。

光と惠み豊なれ！

澄んだ眸から慈悲の光りが射し、双頰から愛の滴がこぼれざうな慕しき先生の温容を思ひつゝ筆を擱きます。どうぞ〳〵御達者に。再た逢ふ日まで。（西田、宮崎兩氏宛）

○谷野信曠兄（能登）　西田天香先生。無面識の者より唐突の書面失禮の程は御寛容下さい。私は寺院に生れた二十三年の青年です。

私は先般中外紙上に連載された一燈園物語を讀んで先づ、現代にかゝる高傑の人格者あり、かゝる眞摯の團體あることに驚嘆し、次で私の心は猛然として先生と一燈園を慕ひ戀ひ憬れ出しました。

石童丸が父の所在を知つた時如何に喜んだ様に私も戀人の住家を發見した歡喜にふるへてゐます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

私の靈が久しく求め探してゐた戀人の住家が一燈園に相違ない。そして先生は私を其戀人に會はして下さるに相違ないと思つた私はもう矢も楯もたまらなくなりました。

戰時金屬が大變拂底したことがありました。それが爲、塵溜に捨てられて顧られなかつた錆付いた腐蝕し切た樣な古金でさへ拾上げられ、燒直され、打直されて新しい形をして再び店頭に顯はれ、そして人々の用に立ちました。古金若し心あらば金其の物の生を完うしたことを喜んだでせう。塵溜で腐り果てるよりも一日でも金自身の存在に意義あらしむるならば街路の溝蓋にならうと農夫の鋤鍬にならうと頓着しなかつたでせう。自己を生かす點に於て皆尊いのだから——。

寺院てふ安逸、虛僞、因襲の塵芥の中で自己の眞生命を腐らして一生を過すよりか皮剝、便所掃除、相は何に變らうと一日でも眞に自己を生かし社會に存在の意義を完うするならばそれこそ本當に尊いことでせう。私はこんな心で寺院を嫌ひ一燈園の奉仕生活に尊敬を捧げるのです。憬るゝのです。

私はぼんやりした考で宗門の中學を卒へて歸寺三年の中に衷心深く生命の腐り込んだ自分を眺めて悲しくなりました。そして此塵溜に在れば在る程愈々腐蝕の度を增すのだと氣附いた時熱い涙が流れました。

先生の語を借れば私の現生活は大乞食（中外所載行乞を小乞食とせば贅澤を貪る者を大乞食と云はれた）の生活否々大詐僞、大盜人の生活であることに目醒めてたまらなく恥しくなつて來ました。是に於て私は先生に御願いたします。どうか私をこの塵溜から拾上げて下さい。信仰の烈火で腐り切た私を燒いて燒いて燒きまくつて下さい。禁欲淨行の鐵槌で打つて打つて打ちぬいて下さい。自己本然の生地を出さして下さい。

私の生れた寺院は親鸞聖人の教を奉じてゐます。其教に依ると在家其まゝ在經のまゝ喜べと教へます。けれどもそれは信後の生活に於て初て可能なのです。悟た後での生活を云つたものだと考へます。信に入る前悟るまでには實に家をも學をも宗門をも捨てる覺悟がなければ駄目だと思ひます。現に聖人親鸞は在纒其まゝの信に達する迄には貴族の家をも身をも、さては二十年間の宗門生活をも捨てゝかゝつたのです。捨家棄欲のプロセスを經ての結論でした。私の周圍の人々は「在纒」と云ふ語葉を楯に取て私の出家（剃髮墨染の姿を必しも云ふのではない、眞實の生活に入る意味）を思ひ止らさうとします。けれども私は其んな言葉では胡魔化されません。そんな言葉を示せば示す程出家の念火に油を注ぐものです。

私は身次男に生れたるが爲め幼より僧侶としての何等の訓練も受けず僅に宗門の中學を出でたるも宗學には無智、儀式用の讀經聲明はから駄目、說教は不得手である。然るに數年前より兄が不治の病に横臥してをる事情などが私を否應なしに僧侶に仕立て上げようとし、私も亦僧侶たる可く讀經聲明說教に可成の努力をして來ました。けれども今はそんな對他的の事、形式的の事に努力することが馬鹿らしくなつて來ました。私は其等の事に無智であり不得手であるだけ共だけ如何にして上手にならう如何なれば他人が有難く聞くであらうかと云ふことに他人の二倍も三倍も努力を費す爲に大切な自己獲信の根本問題を忘却して仕舞ふのです。佛陀の教典宗祖の聖教、先覺の信仰書を讀むには讀んでも其に盛られたる信味の寶玉を自己の所有とはせずに他人への廣告の用に腐心して畢竟自己は空虛になつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

てしまつたのです。私は其んな教理の廣告屋や、如來の仲介者では滿足が出來ぬ。自分躬ら如來と直に膝詰談判をせねばならぬ。第二者的態度を離れて自己と聖教と面と向つて首引やらねばならぬ。他の一切を顧ずに……。かうした態度を取るには今の現境が餘りに纒縛が多過ぎます。私の意志が弱いだけ夫れだけ現境を脱する必要に迫られます。古來の聖者が求道の爲に出家入山された事が成程と今の私に會得出來る樣に思はれます。

私は讀經すること、說教すること、布施で生活すること其自身を嫌ふのではない、僧侶敎職其ものを厭ふのではない。寧ろ私は寺院に啣まれただけ僧侶其ものの本質、本當の僧侶は大好きです。眞理の探究者として、如來の眞摯な求道者として、そして淸い信施で生活する僧職これ程尊い職務は他にありませうか。私は大に好み、大に尊敬するが故に私の樣な僞坊主に此尊嚴な職務を汚し亂させたくありません。私を僧侶にすることは眞理の探究者とはせずに我慾の貪婪者とします。如來の求道者とはせずに罪惡の追求者と化します。かくして私は眞理と益々遠かり如來に愈々背いて暗より暗へと行かせられます。牛頭をかゝげて狗肉をうる者の罪は尙淺い、が如來の頭をかゝげて我欲をうる似而非坊主こそは極重惡人と名附く可きものでせう。

私は今尙兩親が存命され一人の兄があります。前にも申上げた通り兄は不治の病氣で餘命はかり難い。若し私にして寺院に愚圖〳〵してゐる間に兄死し、父母亦變事あり、妻帶を餘儀なくされる樣なことがあつたら私は一體どうなるのです。因襲の力は私を釘付けにします。愛欲の纒縛はグル〳〵と手足をからんでしまひます。さうなつたら私はお仕舞です。似而非坊主となつて罪惡を重ねつゝ一生を終らればならぬのです。思ひ是に到れば最早ジツトしてはをれませぬ「今の間だ!」「さうだ今の間だ‼」「新生涯に入るのは‼」と私の內心はしきりに叫びます。今や年は舊より新へ、社會は改造へと向ひつゝある時自己も亦舊より新へ、僞より眞へと進まねばならぬ。

私は以上極めて統一もない斷片的な言葉を羅列して來ました。私の今の心情を表現すべく私の腕は餘りに拙い。私の思を系統立てゝ書くに餘裕がないためにこんなものになりました。實を吐けば私はまだ〳〵本當に燃ゆる如き求道心がないのかも知れぬ。或は一時熱しても其れはやがてさめはてる流行性感冒の發熱かも知れぬ。けれど私は考へます。縱令其が微々たるにせよ、一時的のものにせよ、さめはてる可きものにしろ、此私の靈に眞如來を摑まうとする求道の一閃が起りつゝあることを無意味にしたくありません。此れ所謂眞宗で說く他力の御導に依るのではないでせうか。若し然らば何處までも此一閃を輝かし恂眞の心を愛護するのが私の勤務ではないでせうか。

西田天香先生、最後に重ねて御願いたします。私を一燈園に入れて下さい。淨き奉仕生活をさせて下さい。眞人間に仕立てゝ下さい。若し先生にして我が切なる願を御許し下さるならば私は萬難を排して上京します。そして如何なる仕事でもやる覺悟です。(天香氏宛)

●●●●●

○那須さま子姉(岡山)　春頃よりお目もじの榮を得たく存じて居ました望みが叶ひ、且二日もお側に居る事が出來、色々と御指導御教訓下され、その上宿めてまで頂き御禮の申上やうも御座いません。まことに嬉しく、實にあの二日間は私の生涯にとり、忘るべからざる日で御座います。只お話を聞きましたのみならず、實地の經驗を敎へて下されましたるが、何よりの賜物です。托鉢にまゐりましたこと、一

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

燈園にまゐりました事など、目の前に見える樣におもひます。私歸途車中にて本當に考へました。夜はやすむ迄又考へました。どうか自分は眞面目になりたい。なり得ると信じてかゝれよとの御言葉、只信ぜよとの御言葉、此樣なる事は今迄にても幾度きいたかしりません。又キリストは人に使はるゝ爲めに來られし事、下から働くといふ事も牧師から毎度聞いた事で御座います。然るに今迄は多く思想上の事にて中々實行の伴はざりしに、此度は何故か、その二つの事が明かに分りました。これからは、どんなつまらぬ事にても喜びてなす事が出來るやうな心持がいたします。今迄は私は教師として義務的に、いや々ながら致す事が少く御座いませんでしたが、昨今は心持よくいたす事が出來る事を經驗いたします。今日もいと小さき事ながら、自分に氣がつきましたから、一寸或ることに手を出しましたら、人が同じく手を出して、私以上にしてくれます。あゝ、有り難い事だと感謝致しました。平凡に大なる眞理を見出したいと存じます。今迄私はかなり宗教上の事についても考へたし、また悶へました、そうして古き衣は捨てゝ、新らしき衣を着たつもりで居ましたが、もう一枚脱いで居りませんでしたが、それを先日脱がして頂いた樣な心持がいたします。然し人間の弱い所はその一枚の古衣が脱ぎたくなく、又それに氣付かざるあはれなものです。それがやつと分りました。が然し、私の信仰は弱くしてヤヤもすれば動かされやすく、又もとに歸らんとします。これから眞劍になつて進みたいとは存じますが、中々苦しい事も御座います。今でこそよい心地になつて致さんとは思うていますが、これがいつ迄つゞきますか。此心持は半年以上も前から望み求めて居ました處ですが、先生から教へられし經驗によつてヤッと分りました。（下略）（西田氏宛）

○倉田百三兄（東京大森）　先日はわざ〳〵いらして下さつたのに折惡しく病院に行つて不在中で本當に濟まなく思ひました。一時間も惜しい忙しい中をわざ〳〵ゐらしつて頂いたのに本當に殘念でした。お藥は頂きまして誠に有難く頂戴致しました。私如きもののことをそれ程に心に掛けて下さるかと思へば勿體ない氣が致します。感謝して服藥させて貰ひませう。御本を有難く戴きました、これから喜んで讀ませて頂きます、私も皆さんのあとにくつついて忠實に進んでゆきたく切願します。私は私なりに怠らず精進してはゐますが、藝術と云ふ使命がある爲に直接に美に奉仕せねばならぬ所が出來、形象の世界に心を勞することが多く、形の上で同じ歩みの出來ないのを感じます。併し同じこの世界の調和に奉仕してゐるとと信じてゐます、美を想像しても美に執着しないことは（自己の享樂として）園丁が花を作つても其花を自分の所有にはしないやうなものです。涅槃は卽ち涅槃ですがこれは佛教に云ふ有餘涅槃であつて何物にも壞されない涅槃とは違つて實生活の他の心勞に依つて壞されるものですから之に安じてはならないと思つてゐます。又お閑の時いらして下されば大變嬉しく思ひます。（西田、中桐兩氏宛）

大正十年八月五日印刷、同日發行（代金廿錢）
東京市牛込區原町三丁目五十三番地
編輯兼發行者　中桐確太郎
東京市神田區仲猿樂町十七番地
中外印刷株式會社代表者
印刷者　渡邊市太郎
東京市牛込區原町三丁目五十三番地
發行所　東京宣光社
○郵便爲替にて御送金の方は「牛込若松町局」指定に願ひます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

御問合に就いて

私の托鉢先を御承知なき時には

○『天華香洞』についての御用は『京都市鹿ケ谷一燈園　氣付　乞子詰』と御宛て下さい。

○『一燈園』について特に私への御用は『同上一燈園西田天香』と御宛て下さい。

○『宣光社』について特に私への御用は『同上一燈園内宣光社西田市太郎』と御宛て下さい。

○尙御下問くださつたことの中、公開して差支ないと思はれますものは『光』誌上でお答さして貰ひます。已むを得ず御返事を怠るやうなことがありましたら、どうぞ御許し下さい。

西　田　白

○當園への御用は『一燈園當番』とお宛て下さい。

○一宿兩餐の方(一夜どまりの道友)は、御不自由さへお厭ひなくば常に歡んでお迎へ申します。

○入園御希望の方は當分天香在園の時に願ひます。遠方の方はよくお打合せの上にして下さい。

○一燈園生活についての御尋ねは、一般的の問題として差支ないと考へられますものは『光』誌上で、當番がお答いたしますが、日々托鉢してゐますので行屆かぬ時はお許し下さい。

京都市鹿ケ谷　一燈園當番白

○經濟問題の御照會、『懺悔の生活』及『光』の取次事務は『宣光社預務』宛にして下さい。

○是も一般的のものは『光』誌上でお答いたします。

京都市鹿ケ谷一燈園內宣光社預務白

編輯だより

本誌第二號は昨年三月に發行しましたが、その折、警視廳の御係より御注意がありまして、從前の出版手續によるならば、次號の發行は、六ケ月經過の後ならでは許されず、若しまた、(第二號に於ける如き程度にても)時事に觸れつゝ、毎月發行せんとするならば、相當の保證金を納むるを要すとのことで御座いました。如何致さうかといふことにつきて同人間に於ては、幾度か相談をかされ、或は互に祈りをこめなど致しましたが、思ふにまかせぬ事ども追々出で來て、月一月と遲れつゝ今日に及びました。久しく御思召に負き、御期待を空しうしましたこと何とも相濟ます、謹みて御わびを申上げます。

此度本誌は、宗敎學藝等に關することを掲ぐるに止め、時事問題には觸れぬものとして暫く發行することに決定し、天香、藤井(悌)、松下の三君の御盡力によりて、只今、第三號をまとむることができましたが、なほ宣光社の組織も、事情の變遷につれて、改新を加ふることになり、本誌編輯の實際には藤井、松下兩君が主として之に當られ、今後は毎月必ず發行することになりました。どうぞ、皆樣にも此儀御諒恕下され本誌の存在をして意義あらしむるやうに、此上とも御援助たまはるやう願上げます。(七月十七日、中桐確太郎)

○本號表紙の題字は傳敎大師の御自筆ゝ傳ふる「天台法華宗年分緣起」の中より頂きましたものです。毎月新たにして見たいと思ひますから、然るべきもの御見當りの折はどうぞ御知らせを願ひます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

一燈園 西田天香著

東京市神田區表神保町拾番地

（振替東京二四八六一）
（電話神田二一三八）

春秋社發行

忽十版

懺悔の生活

四六版四百三十頁
背布函入堅牢美本
コロタイプ版二葉
定價金貳圓五拾錢
送料金拾四錢

▽洛外鹿ケ谷に褐衣繩帶の一團あり、名けて一燈園と云ふ。同人は一物半錢を所有せず、常に懺悔の心を持して十字街頭に奉仕し、菩提心によりて行乞す。その園主を西田天香氏となす。

▽天香氏とは何人ぞ。嘗って倉田百三氏の名作『出家とその弟子』が一世の讀書界を動かしし時、一部の人士は作中の親鸞と唯圓とを目して、暗に天香師の心の兩面を材としたるものと噂し合へり。吾人は玆にその當否を斷ぜず、只、倉田氏が西田師に私淑する事日久しきを言へば足る。

▽綱島梁川氏は十數年前豫言して言へり。世は自らにして西田氏を知るの機あらんと。本書は西田氏が前半生の追憶、轉機の經路、現在の心境を具さに披瀝すると共に、倂せて同人の行事逸話等を批判したる一個の新らしき使徒行傳也。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN